

**夕張市人口ビジョン及び地方版総合戦略
第1回 策定委員会
資料**

1. 夕張市まちづくりマスタープランの概要 とまちづくり施策の実施状況

(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■ まちの特色・課題

分散した市街地

炭鉱都市

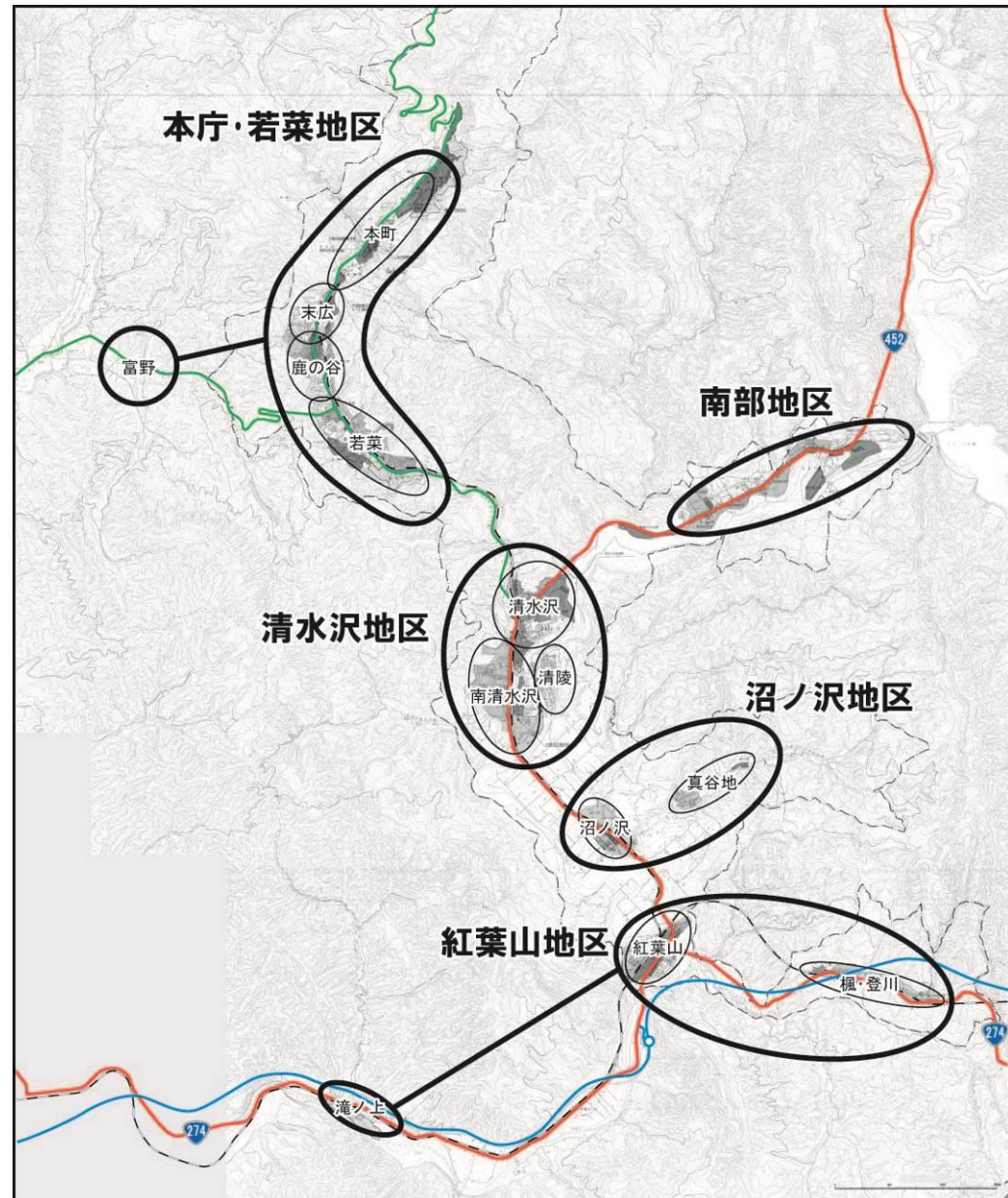
➡ 山間部の河川沿いの細長い平地部に、炭鉱の坑口ごとに市街地形成

➡ 人口減少による市街地の低密度化

財政再生団体

- ・H19 財政再建団体へ移行
- ・H22 財政再生団体へ移行

➡ 将来の暮らしに対する不安の増加



(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■ まちの特色・課題

【まちづくりの課題】

- 超高齢化、人口減少社会を直視した協働の取り組みが必要
- 既存ストックや未利用地域資源を活用したまちづくりの展開が必要
- 持続可能な地域づくりに向けた都市構造の再編が必要
- 広域連携が必要



市民の皆様と議論しながら、 将来像と将来都市構造を検討

- ・策定委員会での検討(計6回)
- ・公開討論会、地区懇談会(5地区)の開催
- ・市民、交通事業者へのヒアリング(延べ76人、9事業者)
- ・まちづくりかわら版の発行(計7回)

(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■ 基本理念とまちの将来像

【基本理念】

夕張の歴史文化・自然環境の保全と継承

歴史文化

夕張の発展を支えた産業遺産や各地域の強いコミュニティ・きずな（旧炭鉱住宅群跡、ズリ山、地域文化など）

自然環境

長い時間をかけて形成してきた、貴重で豊かな自然環境（夕張岳、夕張川、貴重な動植物など）

【まちの将来像】

安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり
～夕張の歴史文化・自然環境を大切に持続可能な地域社会の構築～

(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■まちづくりの基本目標（ビジョン）

暮らし

豊かな生活の確保・推進

- ①安心・安全に生活できるまちづくり
- ②誰もが暮らしやすい、ひとにやさしいまちづくり
- ③快適で魅力のあるまちづくり
- ④夕張の歴史文化とコミュニティを大切にしたまちづくり

活力

地域活力の創出

- ⑤地域資源を活かした活力を創出するまちづくり
- ⑥都市経営コストを軽減するコンパクトなまちづくり

環境

自然・地球環境との共生

- ⑦豊かな自然環境・生態系の保全・活用するまちづくり
- ⑧低炭素社会に向けた地球環境にやさしいまちづくり

(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■ 将来都市構造

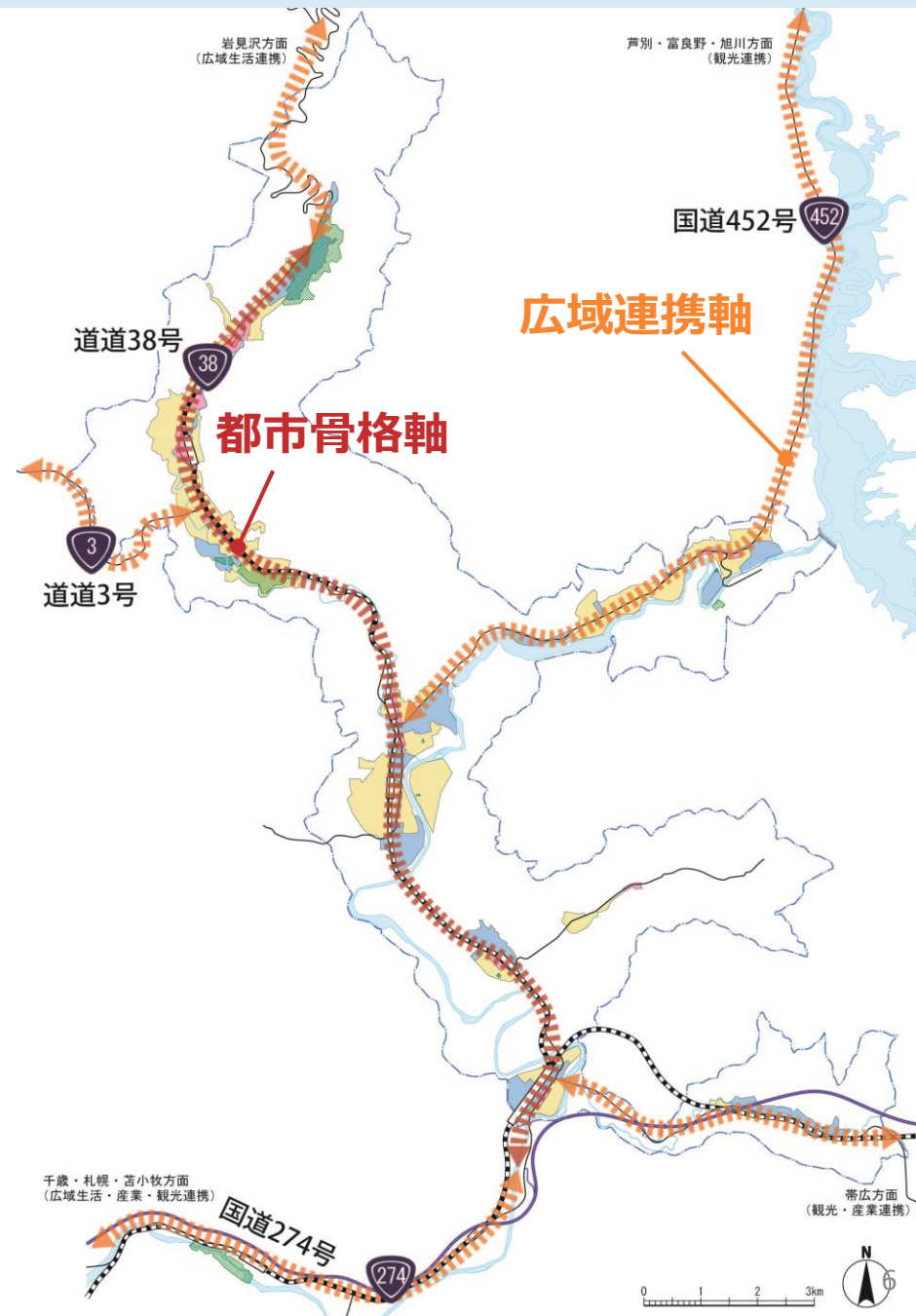
骨格軸① 都市骨格軸

(国道274・452号、道道3・38号、JR石勝線(夕張支線))

国道・道道に加え、JR、下水道、市営住宅、官公庁、その他公共公益施設等の既存ストックが集積している南北軸を『都市骨格軸』として位置づけ、夕張の生産や生活を支える骨太な都市骨格を形成します。

骨格軸② 広域連携軸

札幌・栗山・千歳・苫小牧方面や芦別・富良野方面、岩見沢方面、帯広方面などの周辺市町村と接続する一帯を『広域連携軸』として位置づけ、安心できる生活や活力ある産業・観光を支える交流・連携軸を形成します。

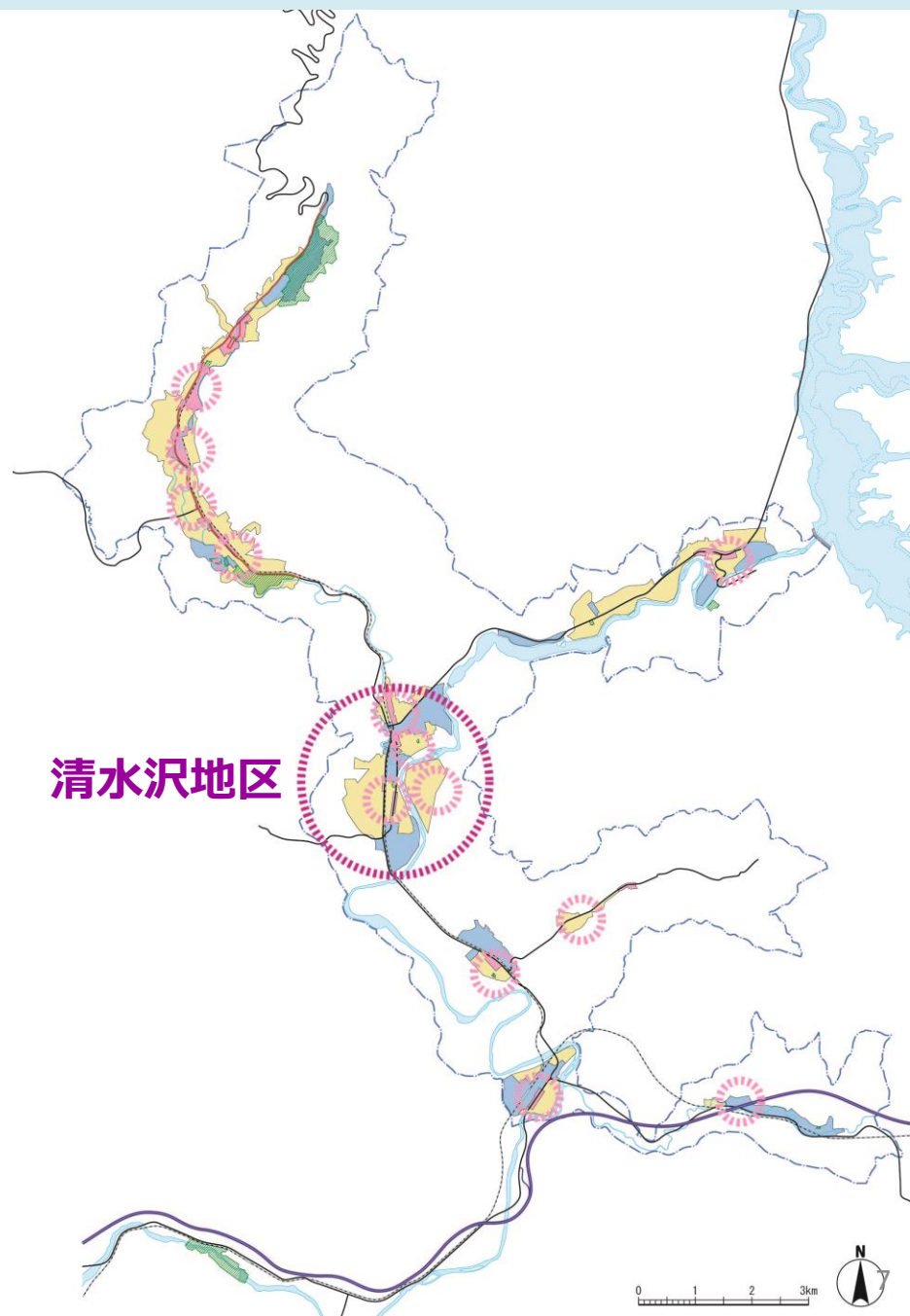


(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■ 将来都市構造

拠点・地区① 都市拠点 (清水沢地区)

これまでの居住・商業・工業機能に加え、交流拠点機能や産業集積機能、生活利便機能などの強化、及び居住機能の更新等により、都市機能集積地区として夕張の新たな都市拠点の形成を目指します。夕張で育てることができる育児教育や、子どもと高齢者の多世代交流や同世代交流、地区内で暮らし働くことができる生活などが可能となる環境づくりを行います。



(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■ 将来都市構造

拠点・地区② 地域内再編地区 (本庁・若菜地区、南部地区、 沼ノ沢地区、紅葉山地区)

生活利便性が高い都市拠点への住替えを誘導しながらも、それぞれの地区課題や地区特性に基づいた、各地区で安心して暮らすことができる地区形成を目指します。各地区の共助による地域福祉や地域交流のコミュニティ拠点形成をはじめとして、地域特性に基づく地域活力の創出、自然環境の保全と創出といった地域再編を行います。



(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

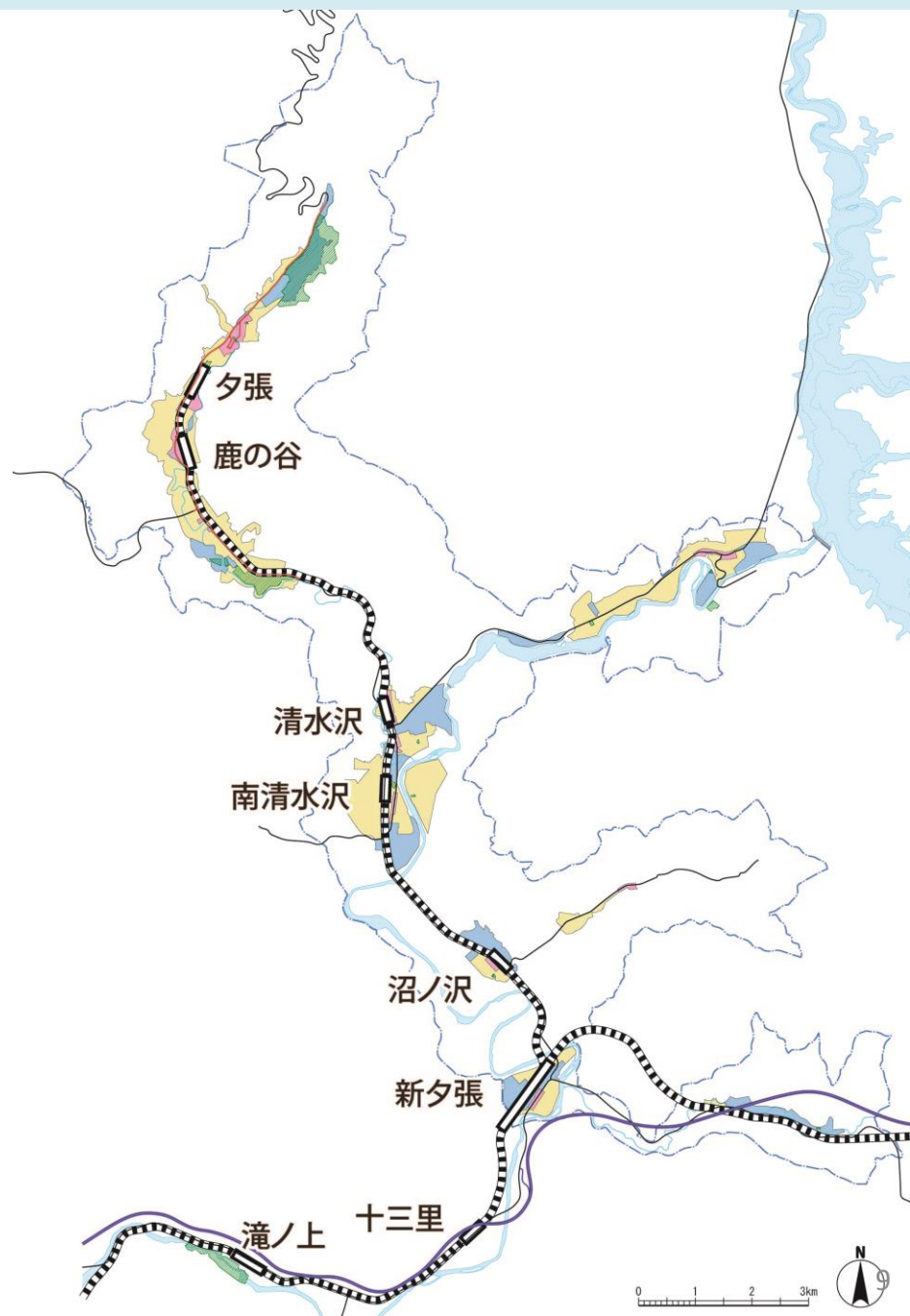
■ 将来都市構造

交通ネットワーク

2骨格軸・1都市拠点・4地域内再編地区による将来都市構造の実現のためには、市内の移動や周辺市町村との広域連携を支える[交通体系の充実](#)が非常に重要となります。

そのため、DMV（デュアル・モード・ビークル）の導入も含めた、[公共交通（JR、バス）と医療機関・商業事業者などによる各種移送サービスの連携](#)による、利便性と柔軟性が高い、効率的な交通網の形成を目指します。

その実現のためには、例えば、公共交通事業者、関係機関、市、市民及び団体、学識経験者などの関係者で構成される協議会を立ち上げ、具体的な検討を図る必要があります。



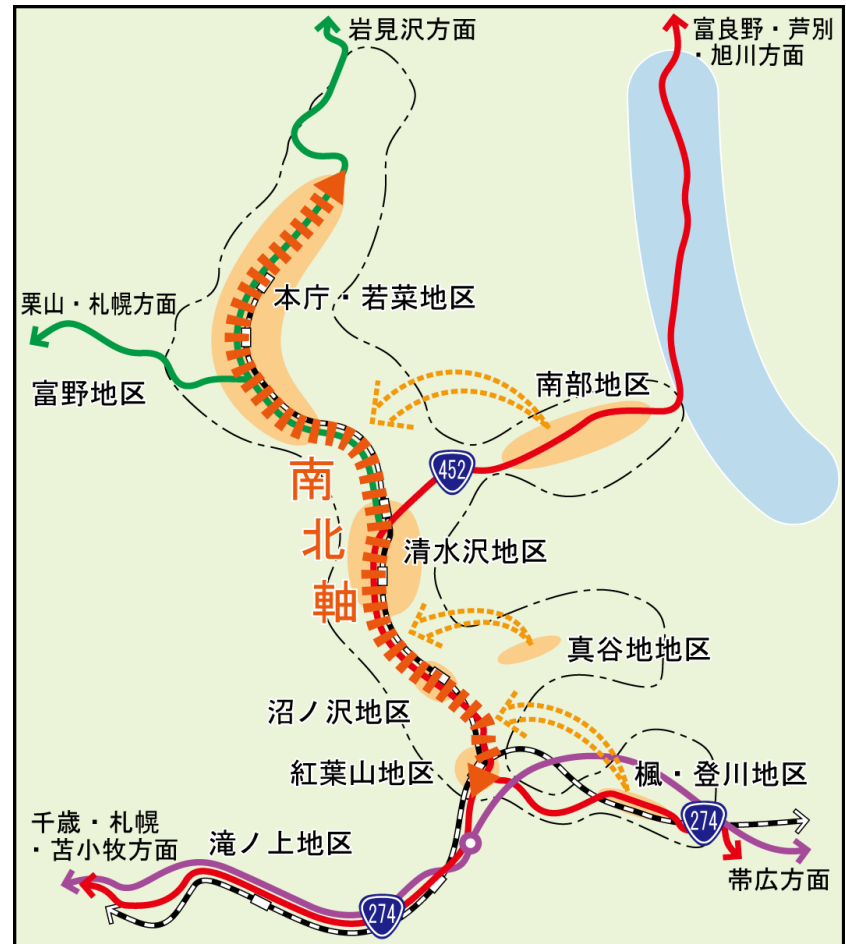
(1) 夕張市まちづくりマスタープランの概要

■ 将来都市構造再編のプロセス

<当面の市街地像>
地区ごとにコンパクト化

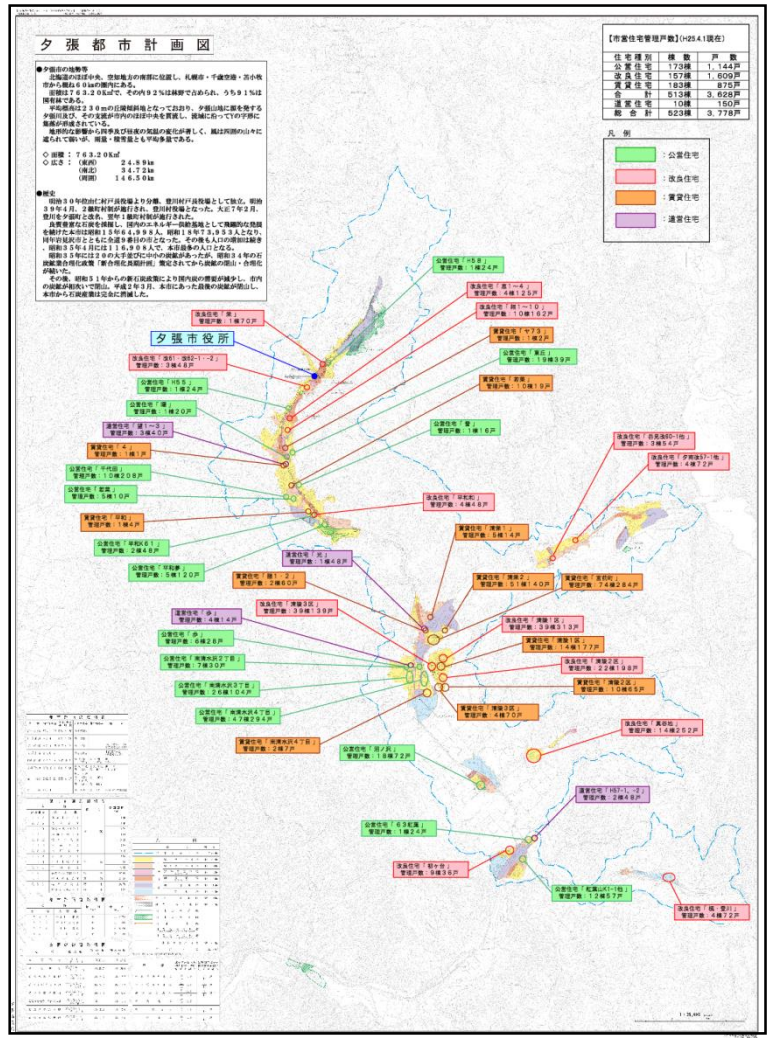


<将来の市街地像>
南北軸に市街地を集約化

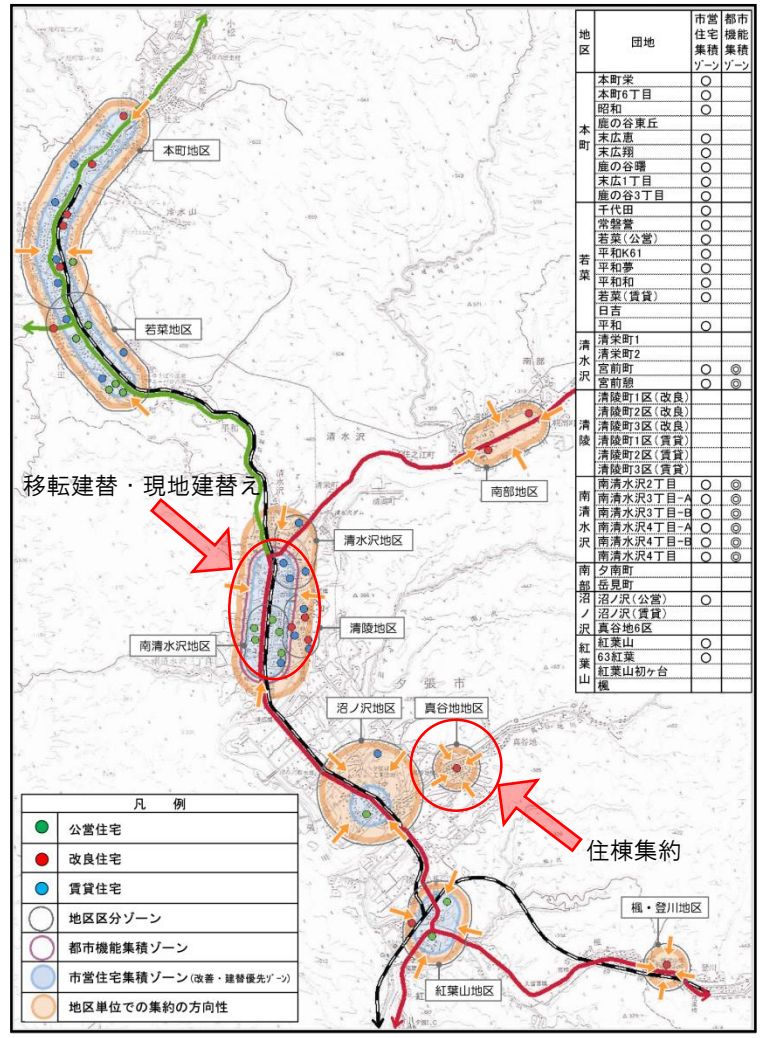


夕張市の市街地再編のイメージ

① 公営住宅団地分布



② 市街地の再編イメージ



市営住宅再編事業（第Ⅰ期）の進捗状況

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 実施予定	計
建設戸数	0	20	20	20	15	15	90
管理戸数 (道営含む)	4,016	3,933	3,778	3,709	3,628	3,593	(423)
備考		歩団地建設(20戸)	歩団地建設(8戸) 萌団地建設(12戸) 真谷地移転集約	萌団地建設(20戸) 真谷地移転集約	宮前団地建設 (15戸)	宮前団地建設 (15戸)	

集約の成果

■ 移転対象市営住宅 ⇒ 新築市営住宅への集約

■ 集落ごとの地区内集約



歩団地建設

230戸⇒55戸(道営27含む)
(175)



萌団地建設

102戸 ⇒ 32戸
(70)



真谷地地区内集約

252戸 ⇒ 108戸
(144)

コンパクトシティに向けた集約



市営住宅管理戸数の減少

同時並行で実施

清水沢地区の建替による再編整備(建て替え前の公営住宅市街地)

【移転対象地区の住宅】

- ・ 地区名 : 南清水沢3丁目
- ・ 建設年度 : 昭和39～40年
- ・ 住戸面積 : 38.2㎡(2DK)
- ・ 浴室 : 無
- ・ 非水洗(トイレ:汲取方式)



【補強コンクリートブロック造 2階建て】



【補強コンクリートブロック造 1階建て】

清水沢地区の建替団地(歩団地)

夕張市営住宅歩（あゆみ）団地完成写真



真谷地地区の住棟集約による再編整備



真谷地地区の住棟集約による再編整備 住民ワークショップ



①背景・目的

②研究の方法

③事例地域の概要

④集約化への重要項目と集約化計画案

⑤計画案のシナリオ

⑥まとめ

真谷地地区の住棟集約による再編整備

集約事業後の住民評価(北大瀬戸口研究室調査)

評価項目	定性評価				
	評価方法				
浄化槽	住替え世帯		全体	非住替え世帯	
	5段階	ヒアリング内容	平均	5段階	ヒアリング内容
階段	3.9	成果:手摺設置低層住替えによる昇降の負担軽	3.3	3.6	成果:階段手摺設置による昇降の負担軽減/将来的安心
部屋の改修	3.8	成果:赤水解消/修繕による快適性向上 課題:手摺設置箇所の問題/修繕に一貫性がない/年度による修繕内容の違い		3.6	成果:赤水の解消/手摺設置による将来的安心
温熱環境	3.5	成果:窓サッシ取替による気密性向上/ 温熱環境向上/結露改善/凍結改善 課題:温熱環境低下/湿気/結露/カビ		3.6	成果:温熱環境向上/隙間風軽減 課題:窓サッシ取替による網戸
浴場	3.5	成果:バリアフリーによる快適性/シャワー改修による利便性向上		3.7	成果:シャワー改修による利便性向上/コミュニティの場として存在
コミュニティ	3.3	成果:会えば挨拶/従来との関係を継続		3.3	成果:会話の増加
除雪	3.3	成果:協力/除雪車/積極的な住民による負担軽減 課題:除雪の義務化		3.2	成果:協力による負担軽減 課題:車庫の増加による雪捨場の減少
家賃・経済	3.2	成果:変わらない		3.4	成果:灯油消費量が減少した
引越	2.7	成果:移転料の支給による財政負担の軽減 課題:家具買替えによる費用の不足			
利便性	2.7	成果:坂道軽減/距離の減少/畑の距離			
集会所	3.0	成果:快適性/将来安心 課題:階段の段差/バリアフリーによる靴の脱ぎ履き	2.8	成果:バリアフリーによる快適性 課題:靴の脱ぎ履き不便	

迫る人口減 炭都の挑戦

かつての炭都・北海道夕張市は、最盛時に10万人を超えた人口が1万人を割り、苦しみが「再生」に取り組む。人口減少が本格化する日本列島の近未来を先取りする形だ。4回にわたって夕張の今を報告する。

北海道・夕張市 1

真谷地集落の市営住宅。3階建てが14棟並ぶ。9号棟の清水芳夫さん(77)が、隣の12号棟に引っ越したのは、一昨年の2013年秋のことだ。



「50歳くらいの引っ越しだけで、みんな腰は重かった」と清水芳夫さん。写真右側の9号棟から左側の12号棟に引っ越した北海道夕張市真谷地

の6割が空室になり、暖房費や除雪費の住民負担が増えた。12年夏、市は说得の集約化のため、住民の说得に乗り出した。初めの説明会では、「住み慣れた部屋だから」「年寄りに荷が重い」など反対意見が続出した。計画では、空き部屋が多い6棟を廃止し、残りの8棟を集める。高齢者には上り下りがきつい3階は空室にして、3階の床に断熱処理をして2階の保温を確保する。木造窓をプラスチックの二重窓にしたり、共同階段室に手すりをつけたりする。引っ越しの補償として14万円を支給する。

「ボトムアップ」がカギ

市職員が手分けをして戸別訪問し、説明を繰り返した。だが、高齢の元炭鉱マンたちはなかなか首を縦に振らない。清水さんは、石炭を運ぶ荷車の運転手を25年務めた。「札幌にいる娘から一緒に住もうと言われるが、孫より一緒に住みたいねえ。何よりの楽しみは歩いて3分の市営の共同浴場だ。入浴料は4200円。8年前からは1日おきの営業になったが、夕方4時を過ぎれば決まってる。昔の仲間がニクニクやってくる。雪の日でも「風呂で仲間と話すのが最高のひととき」と清

真谷地集落の市営住宅の集約化は、市が12年にまとめた都市計画マスタープラン(基本方針)の一環だ。プランは、人口10万人時代に各地に散らばったままの市街地を、1万人以下になった現状に合わせ、20年がかりで再編成するもの。当初の10年間は、真谷地や南部地区など人口減少の激しい集落内で市営住宅などを集約する。次の10年間で、夕張・新夕張駅間の清水沢や若菜地区などを軸に統合する。

「ボトムアップ」がカギ
住民の意向を反映したボトムアップ型を進めたいと表現したいと指摘する。住民の調査は、瀬戸川教授の研究室が担った。国土交通政策研究所は、集約化しないまま現状を放置すれば、住宅、道路、上下水道などの維持費や除雪費の総額は、2039年に現在の3倍近くに膨らむと予想する。減少する夕張市の人口では、とても背負いきれない。

炭層メタンで「攻め」の開発

1月22日、政府は、自治体がつなげた地域活性化策を国が支援する「地域再生計画」の一つに、夕張市の提案した「コンパクトシティ」夕張再生エネルギー活用による元気創進への挑戦を認定した。具体的には、人口減少に合わせた市街地の再編のほかに、全国で初めて炭層メタンガスを開発して、地域経済の起爆剤にしようという計画だ。鈴木直道市長(33)は「市街地の再編という守りだけでなく、炭層メタンの可能性を切り開くことで攻めていきたい」と話す。

夕張市民はここまで借金を返した
2015年1月末現在(概算)



最盛期の11万7000人が9440人に

夕張市では、明治時代中期(1890年代)に石炭の大露頭が発見され、炭鉱が開発された。大小24の鉱山が開かれ、1960(昭和35)年に人口は最大の約11万7千人になった。その後、石炭産業の衰退とともに閉山が相次ぎ、90年に最後のヤマが閉じた。観光業での復活を目指したが、2006年夏に巨額の債務が発覚し、07年3月に財政再建団体に、以来、353億円(約353億)の借金を返している。市長報酬は7割削減で月額25万9千円。市職員給与は当初3割減だったが、現在は2割減。06年度末の勲褒退職に17人が応じるなど中途退職が続出し、06年の260人から現在は104人に。夕張市は東京23区より一回り大きい763平方キロに、炭

353億円20年間で返済計画

散在している。大きく分けると、将来の中心地と市が想定する「清水沢地区」、市庁舎や夕張駅がある「本庁・若菜地区」、かつては三菱大夕張炭鉱が栄えた「南部地区」、真谷地炭鉱を中心とした「沼ノ沢地区」、石勝線からの分岐点に広がる「紅葉山地区」の5地区。炭鉱住宅を引き継いだ公営住宅が3700戸あり、うち4割が空き家で、維持費や除雪費削減のため、集約が急務だ。

(2)まちづくり施策の実施状況

住宅

■市営住宅再編事業

・清水沢地区の建替え

建築済み … 歩団地55戸（道営27戸含む）、萌団地32戸

建築中 … 宮前団地30戸（第1期（H26~27）、第2期（H27~28））

建築予定 … 宮前団地33戸（第3期（H29~30）、第4期（H30~31））

※ 宮前団地の第3~4期計画33戸については、増減の可能性あり。

・真谷地地区の地区内集約（252戸→108戸）

■民間賃貸住宅の建設費に対する補助

・H25~H29までに、合計40戸整備

（H26年度までに20戸を整備、H27年度中には17戸を整備予定）

(2)まちづくり施策の実施状況

交通

- **生活交通ネットワーク計画の策定**
 - ・ **デマンド交通の導入可能性の検討調査**
(H27年10月 実証実験開始予定)
 - ・ **公共交通ガイドの作成**

子育て

- **子ども・子育て支援計画の策定**
 - ・ **子育て相談事業の充実**
 - ・ **保育時間を30分延長 (18:30まで)**
 - ・ **一時預かりの充実**
- **未就学児の医療費無料化**

(2)まちづくり施策の実施状況

医療

■夕張市医療保健対策協議会からの答申

- ・不足している整形外科の充実、市内医療機関との連携
- ・社会医療法人制度の活用
- ・市立診療所の移転を最長10年先送り（H39まで）とし、
現施設の耐震補強・維持補修等を行う。

(2)まちづくり施策の実施状況

地域資源

■ 廃校舎の活用

- ・ 9施設を活用中（アウトドアスポーツ体験事業、障がい者自立支援事業、老人福祉施設 等）

■ 地域資源の有効活用

- ・ CBM（炭層メタンガス）の開発の促進
- ・ スリ山の有効活用（民間事業者による石炭の採取・売却）
 - ・ 水洗炭プラントの稼働（H27～）

■ 庁内ワーキンググループ等で清水沢拠点のあり方や、必要な機能について議論

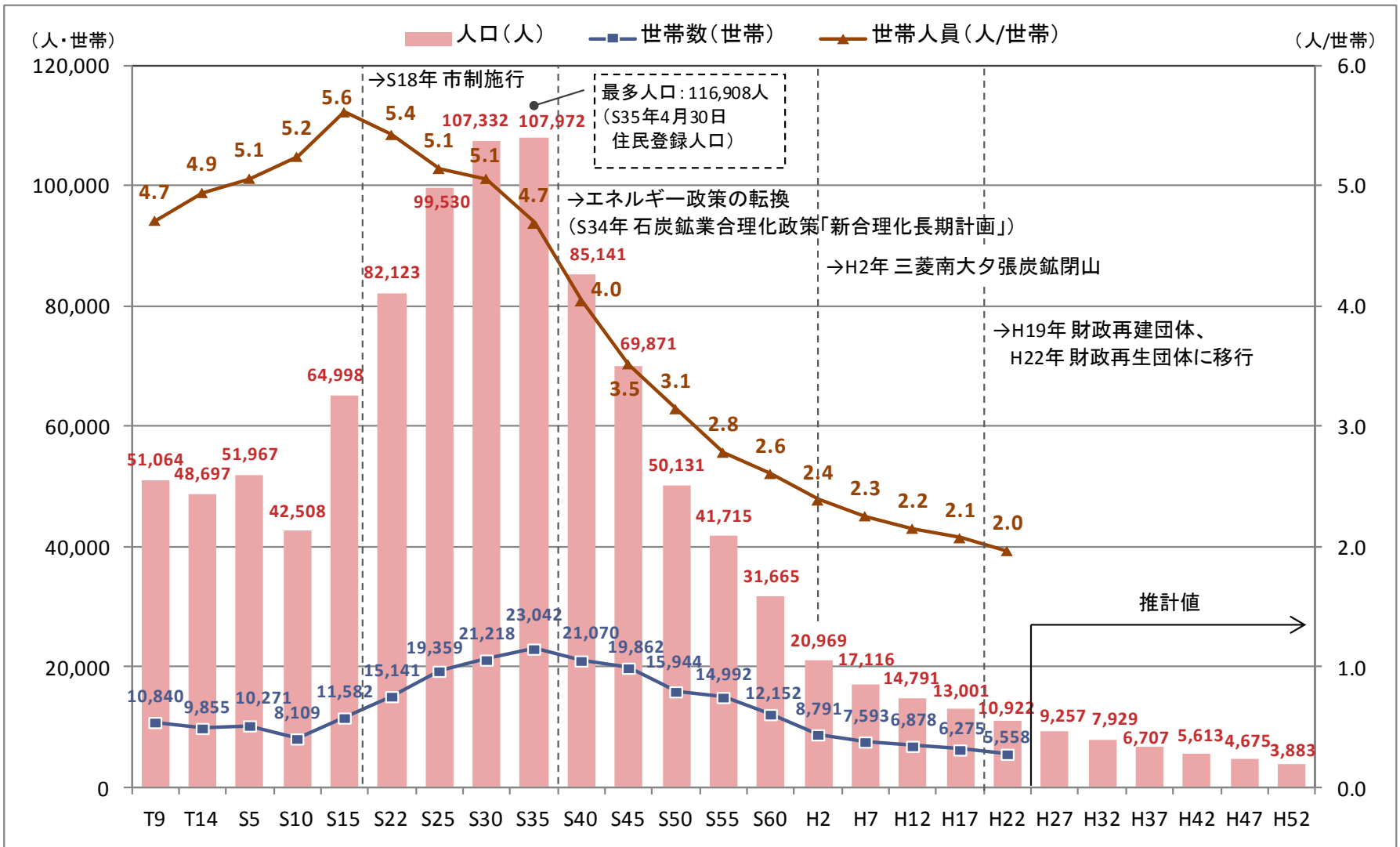
■ 南清水沢3丁目商業施設の誘致

■ 生薬の材料となる薬木の利活用（H27～）

2. 人口動向分析

(1) 総人口の推移と将来推計

【図表】 総人口の推移と将来推計

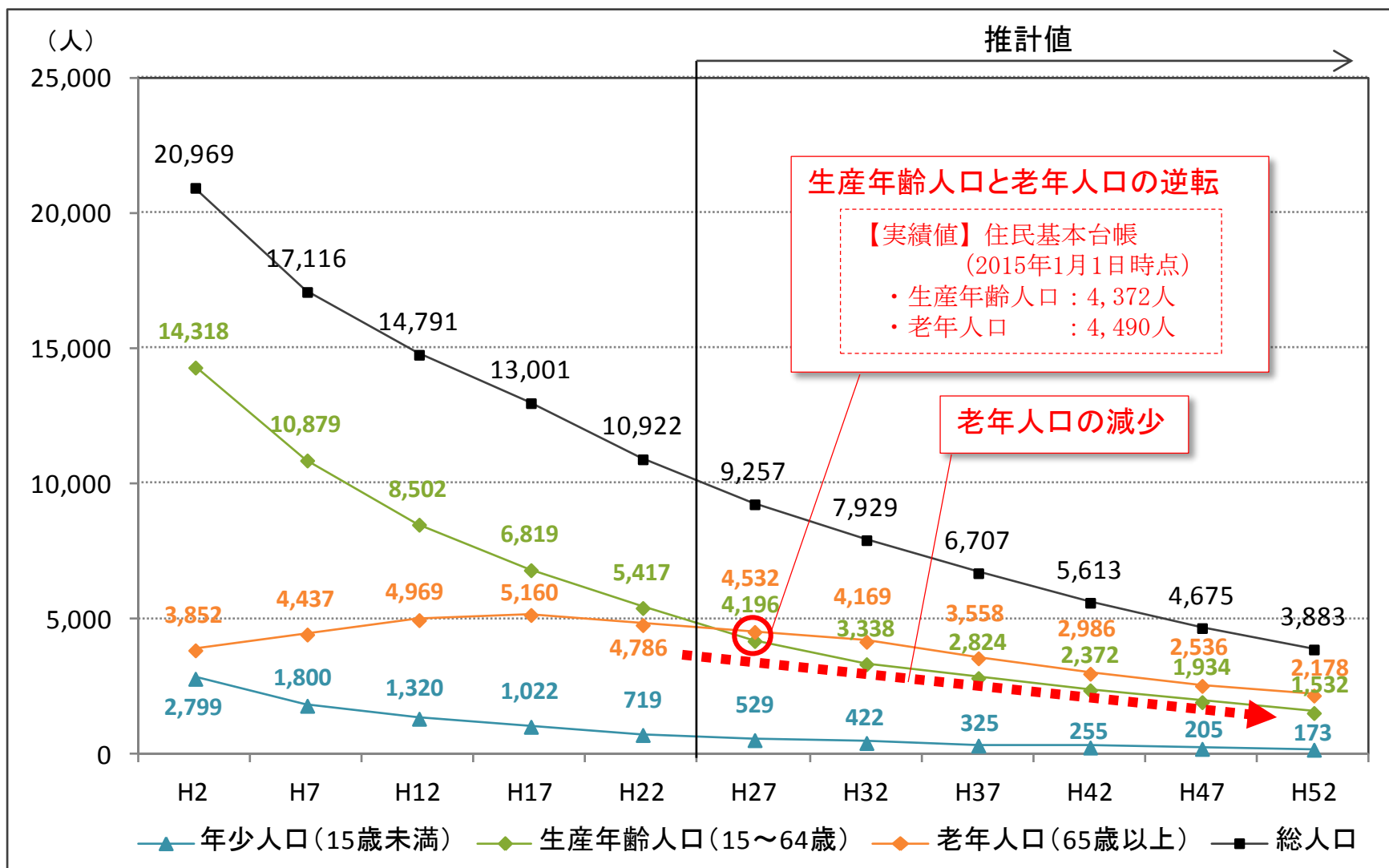


資料: 総務省「国勢調査」(大正9年～平成22年)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成25年3月推計)」(平成27年～平成52年)

(2) 年齢別人口の推移と将来推計

【図表】 年齢3区分別総人口の推移と将来推計

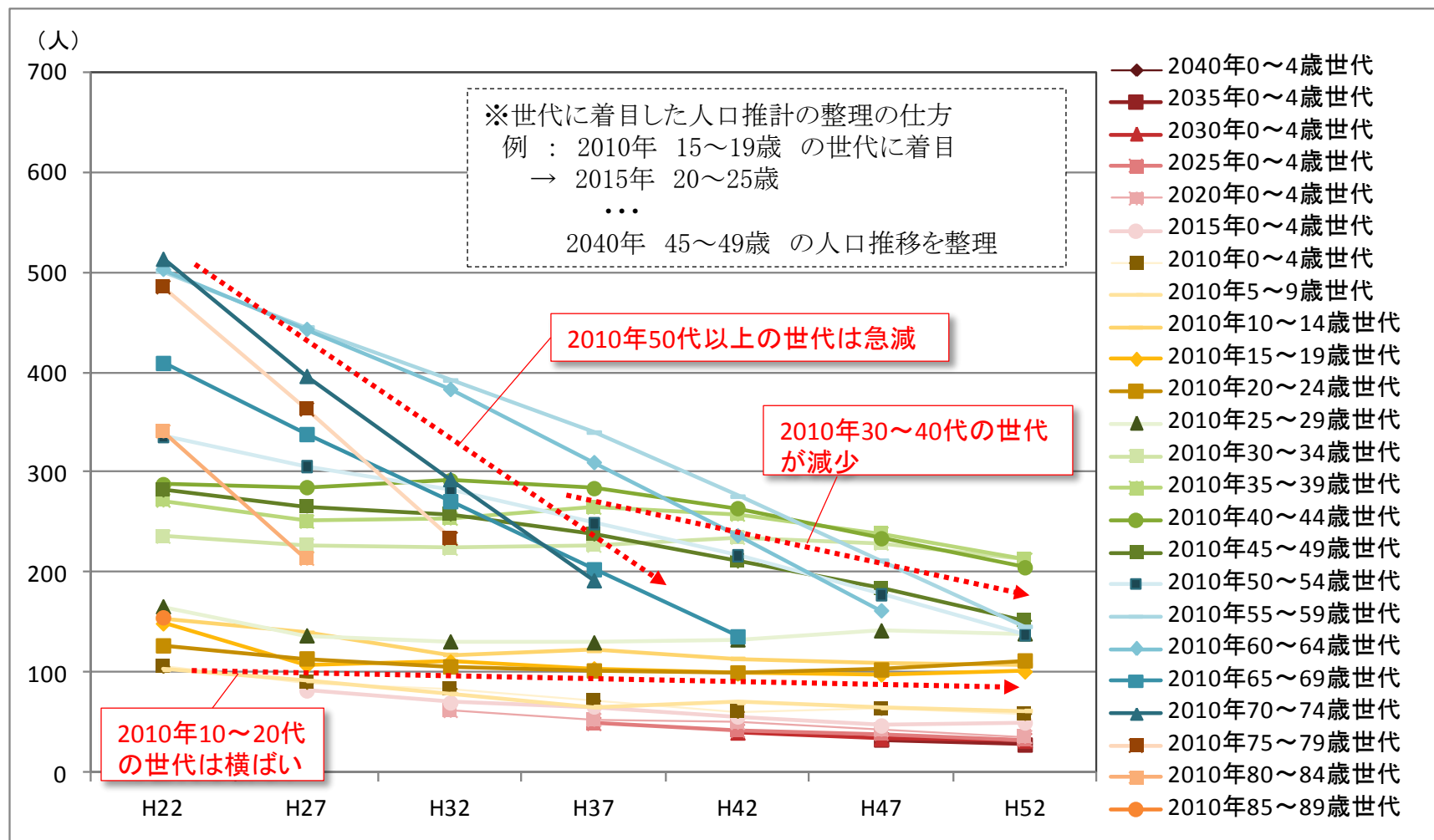


資料:総務省「国勢調査」(平成2年~平成22年)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成25年3月推計)」(平成27年~平成52年)

(2)年齢別人口の推移と将来推計

【図表】世代に着目した年齢5歳階級別人口の将来推計（男）

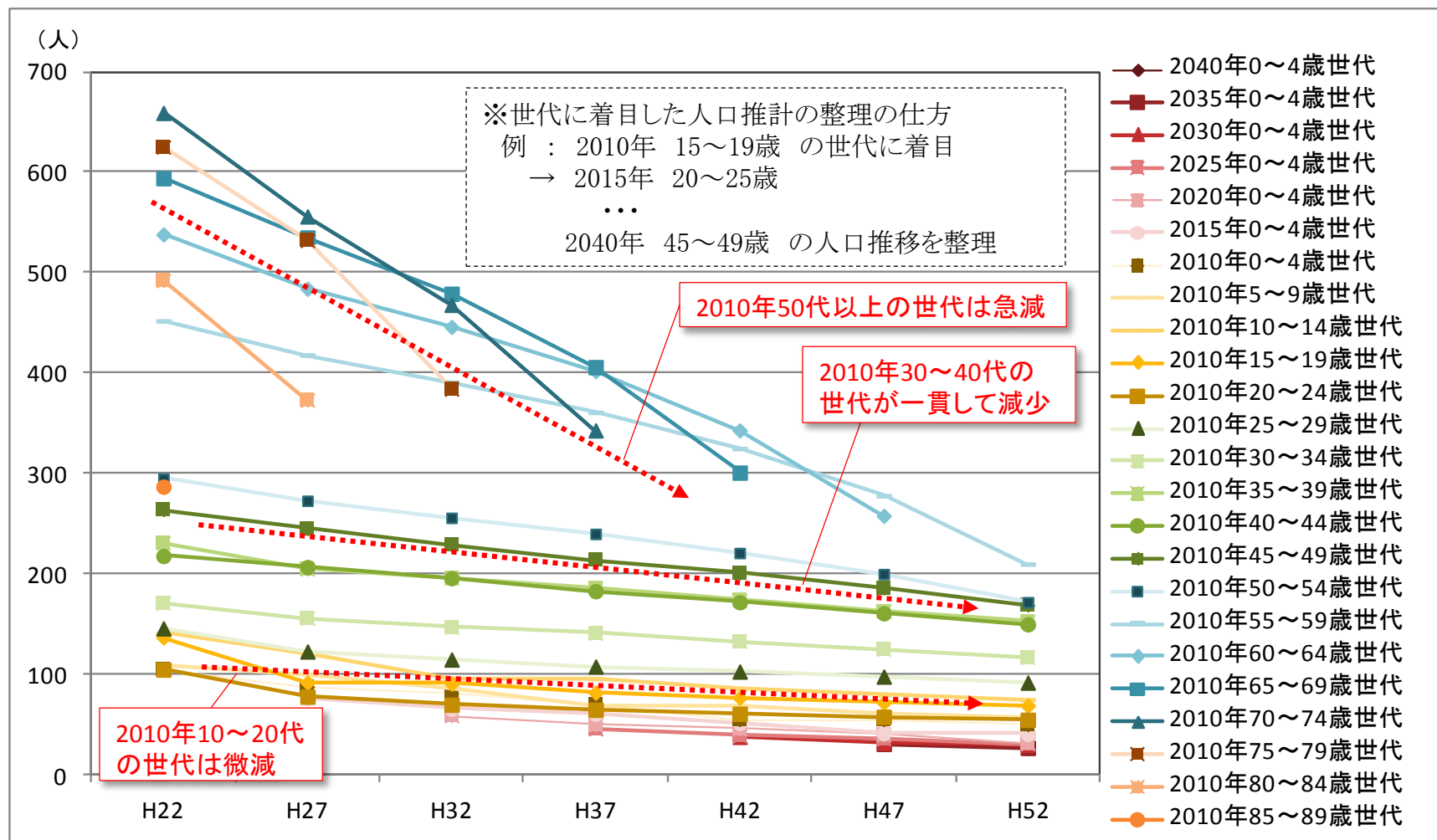


※5歳階級別の世代に着目した推移を示しているため、「90歳以上」の人口は除いて整理している。

※ここでの整理は、男女別年齢・5歳階級別の将来人口推計の結果をもとに作成したものであり、世代ごとに人口推計をしているわけではないことに留意する。

(2)年齢別人口の推移と将来推計

【図表】世代に着目した年齢5歳階級別人口の将来推計（女）

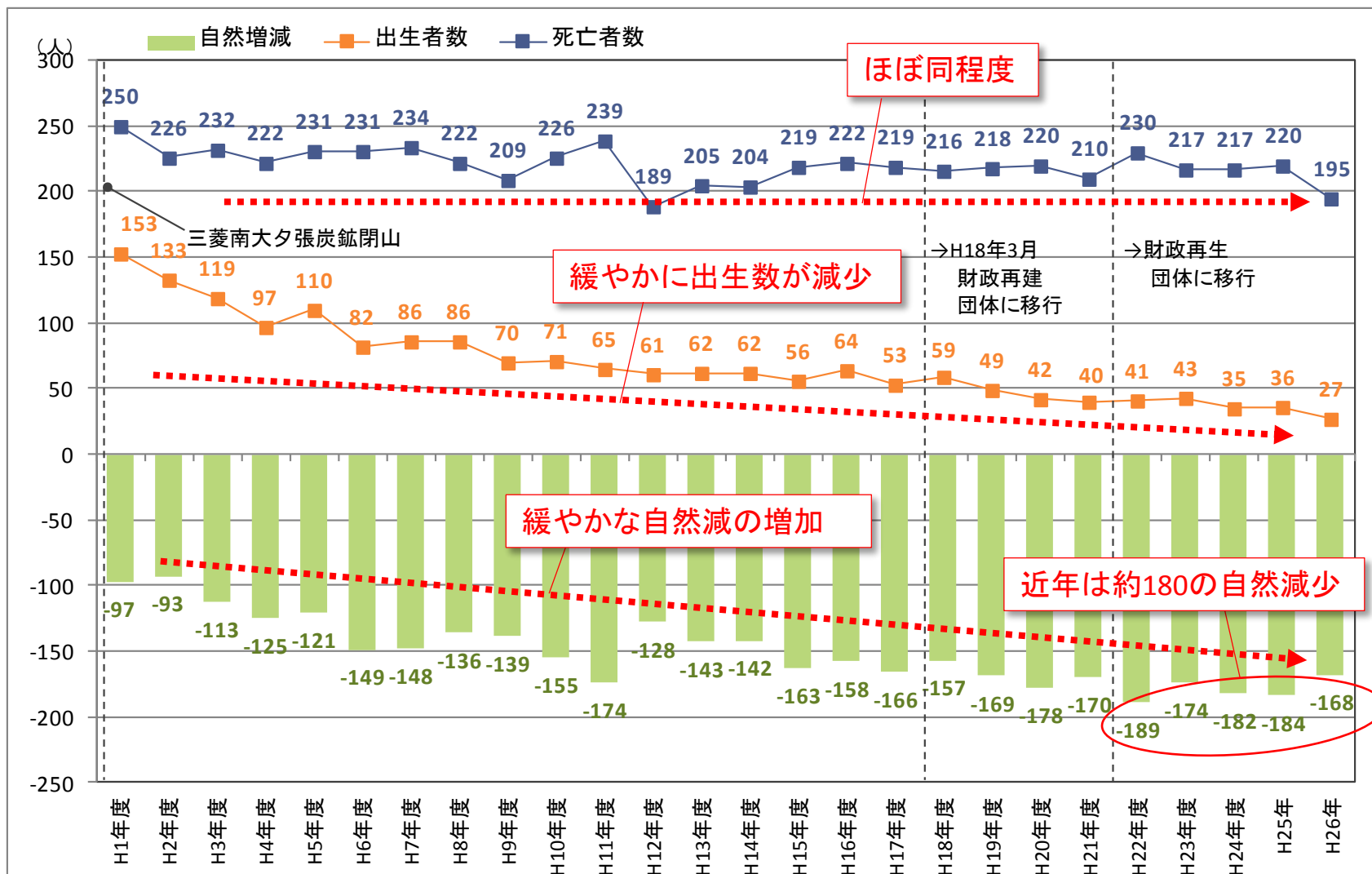


※5歳階級別の世代に着目した推移を示しているため、「90歳以上」の人口は除いて整理している。

※ここでの整理は、男女別年齢・5歳階級別の将来人口推計の結果をもとに作成したものであり、世代ごとに人口推計をしているわけではないことに留意する。

(3) 自然増減の推移

【図表】 自然増減・出生者数・死亡者数の推移（短期）



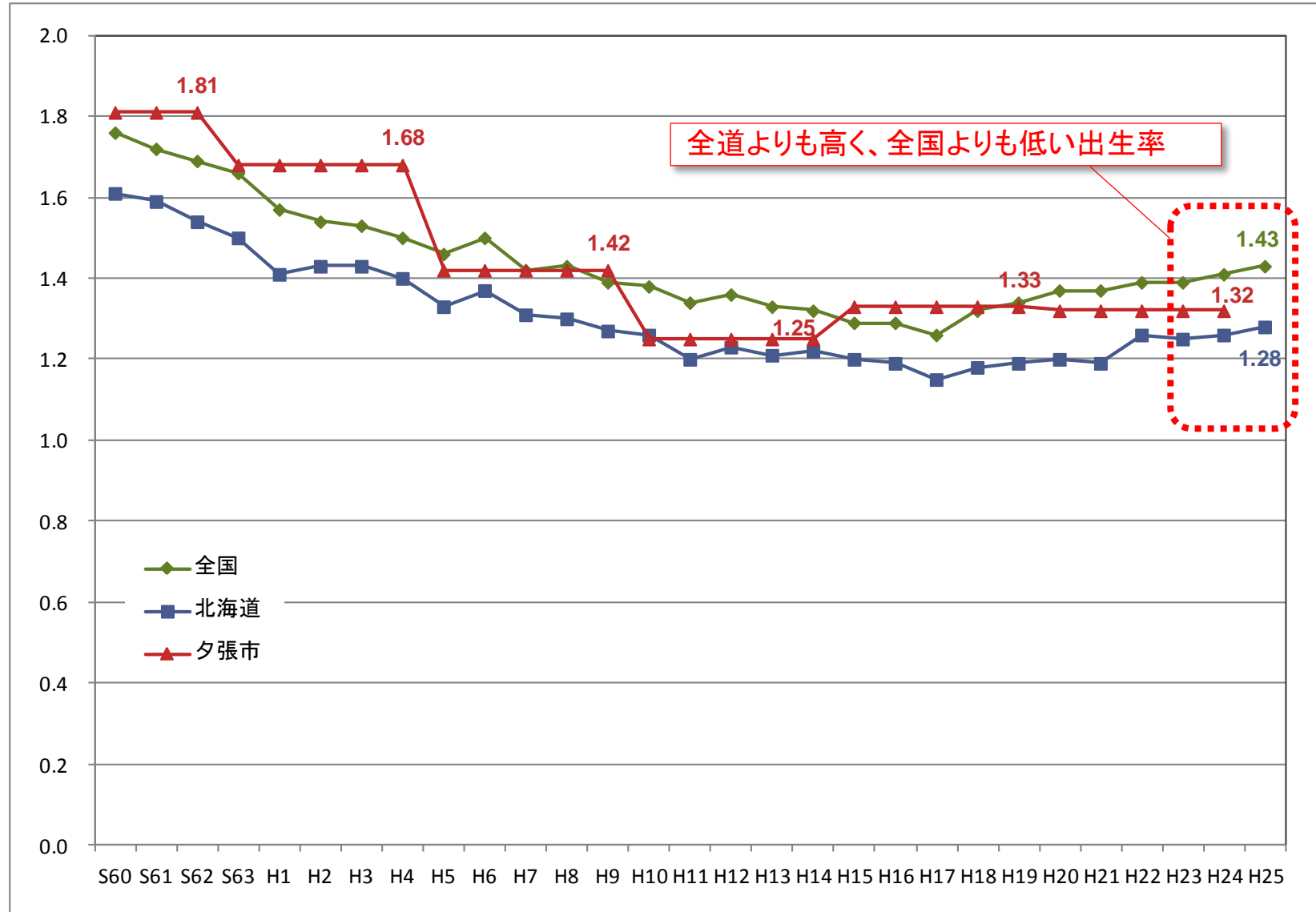
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(平成2年度～平成24年度は4月1日～翌年3月31日の人口動態、平成25年以降は1月1日～12月31日の人口動態)

※調査基準日の変更により、平成25年1月1日～3月31日の出生者数と死亡者数は重複して集計。

(4)出生に関する分析

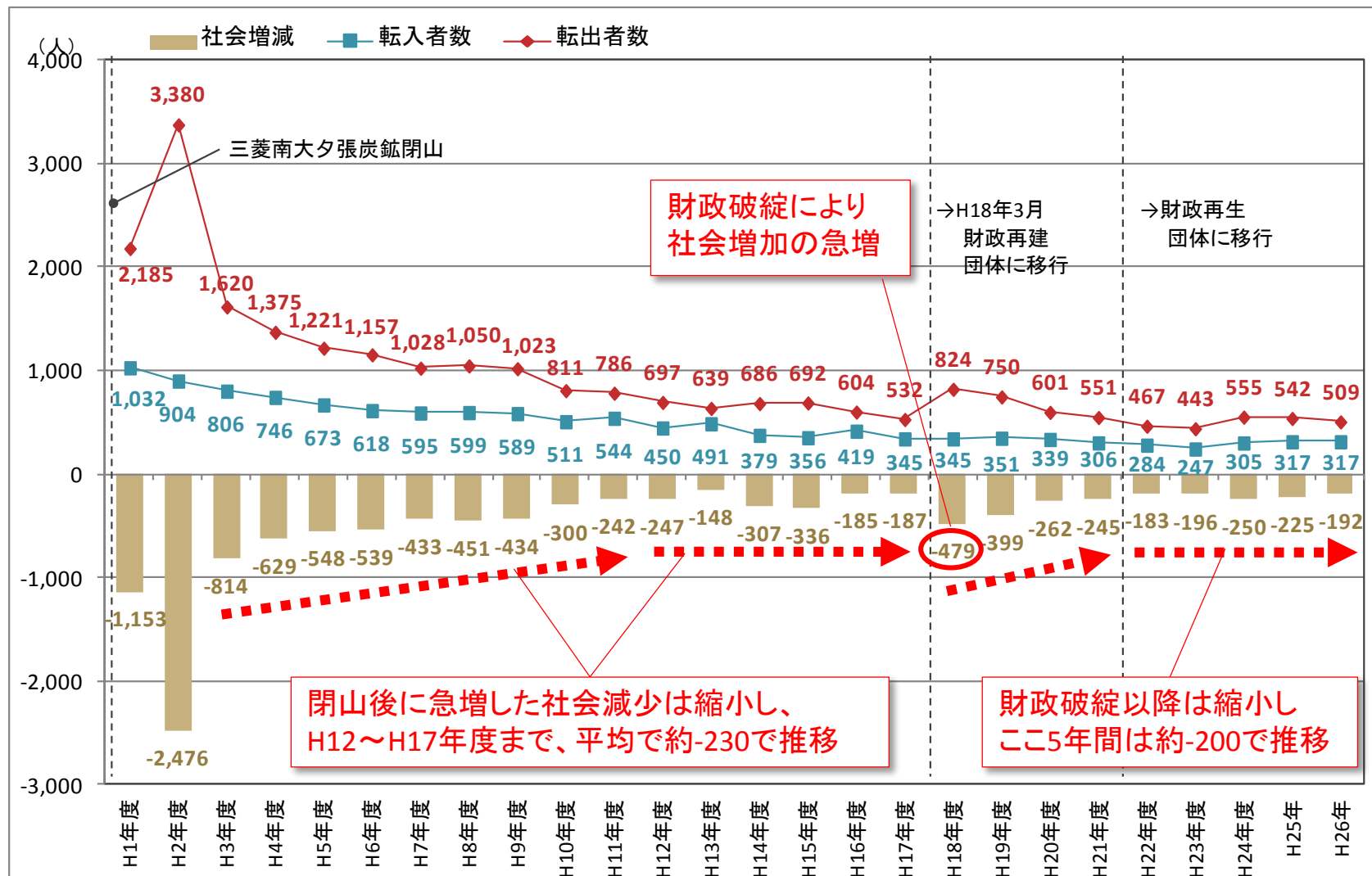
【図表】 出生数と合計特殊出生率の推移



資料:厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

(5)社会増減の推移

【図表】社会増減・転入者数・転出者数の推移（短期）



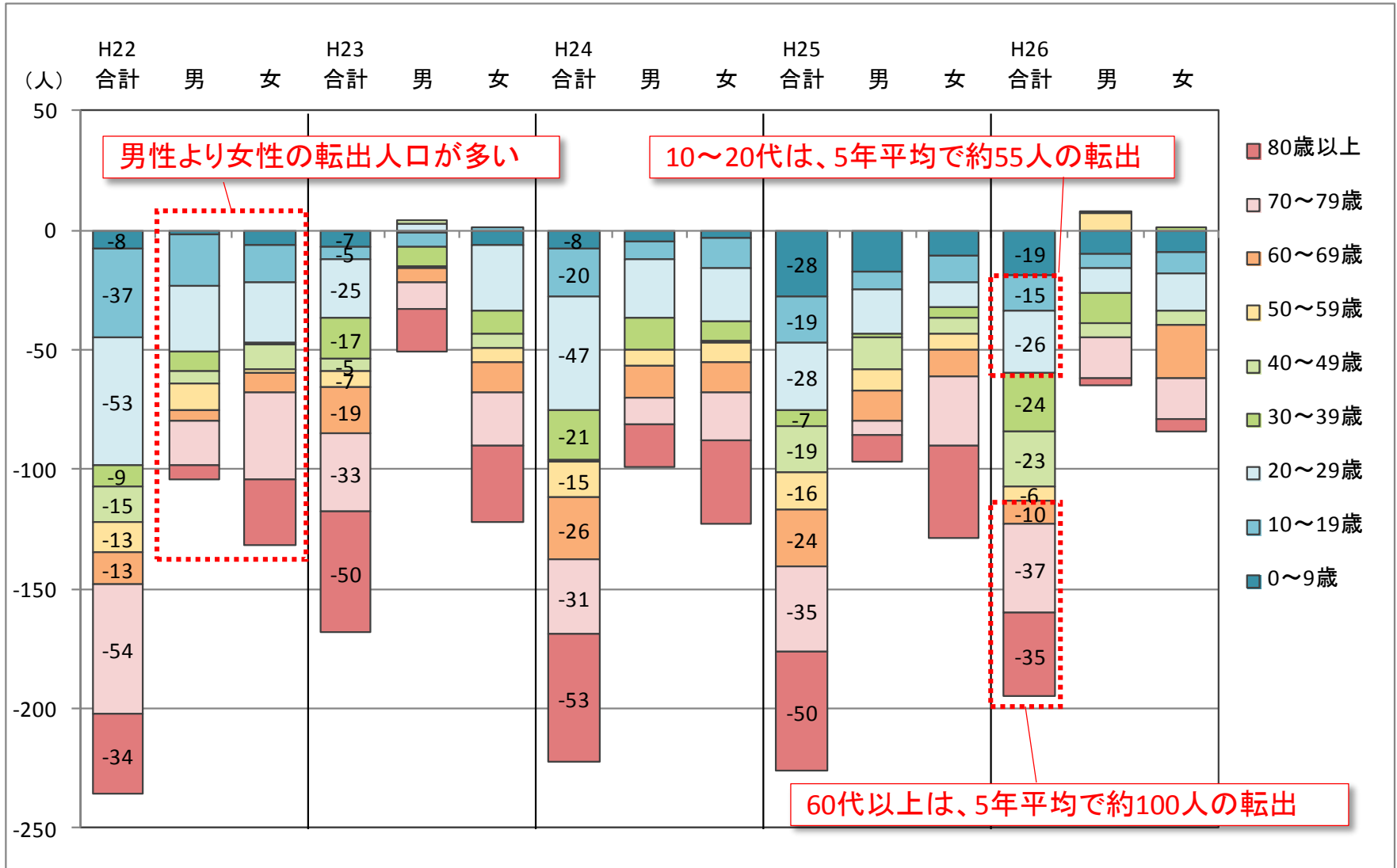
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(平成2年度～平成24年度は4月1日～翌年3月31日の人口動態、平成25年以降は1月1日～12月31日の人口動態)

※調査基準日の変更により、平成25年1月1日～3月31日の出生者数と死亡者数は重複して集計。

(6)年齢階級別の人口移動の状況

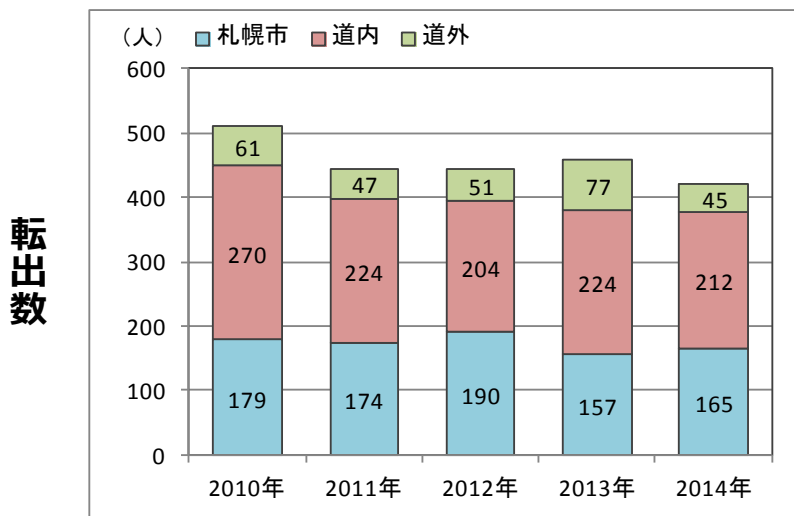
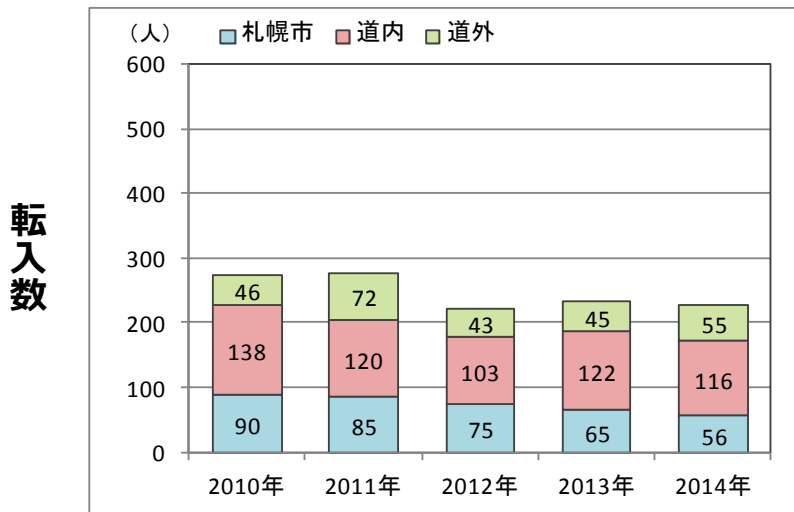
【図表】年代別の社会増減の状況



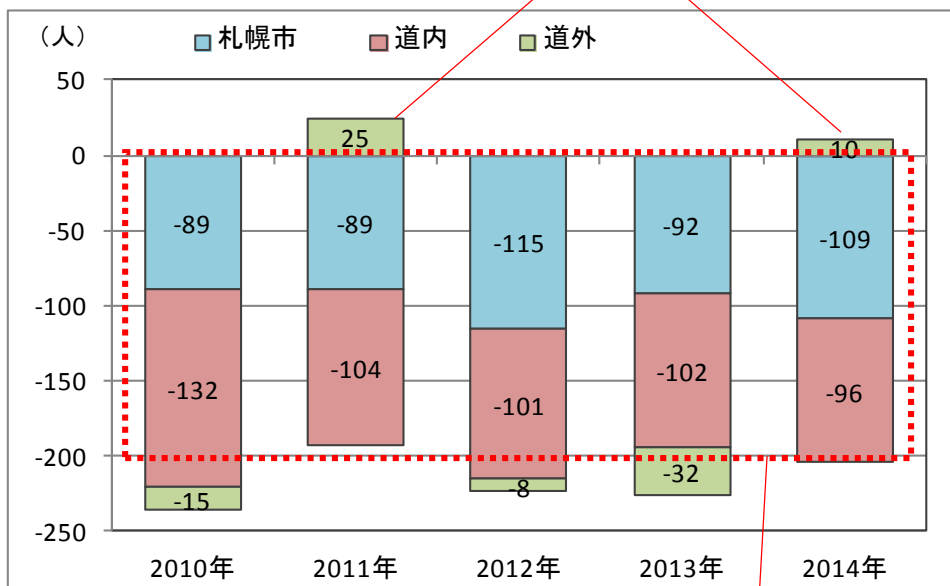
資料: 夕張市データ(住民基本台帳(各年4月1日))

(7) 地域ブロック別の人口移動の状況

【図表】 地域別の社会増減の状況



社会増減数

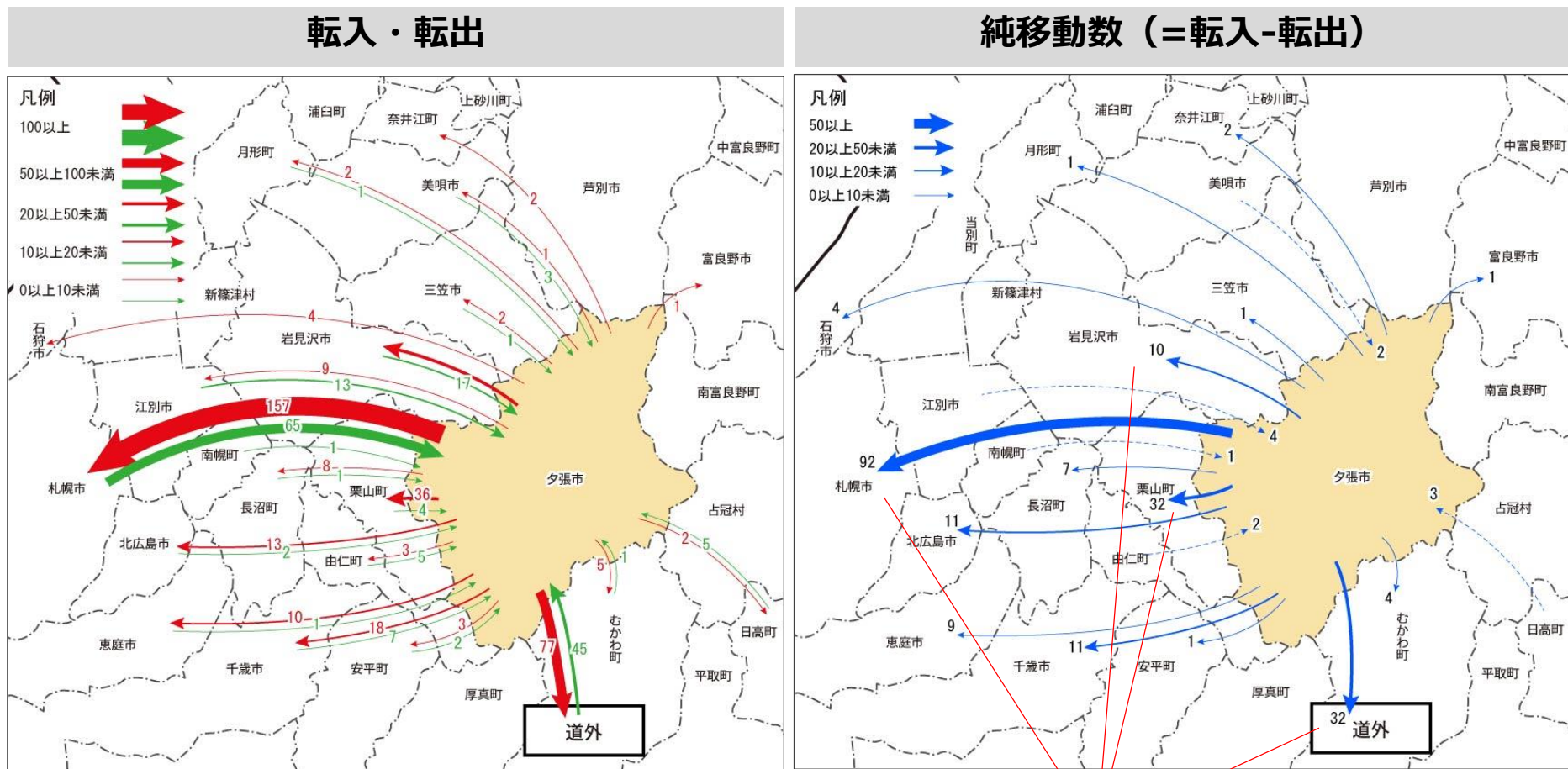


一部、道外からは転入超過
となっている年もある

札幌市と道内が約半数程度

(7) 地域ブロック別の人口移動の状況

【図表】 周辺地域との人口移動の状況（H25年）



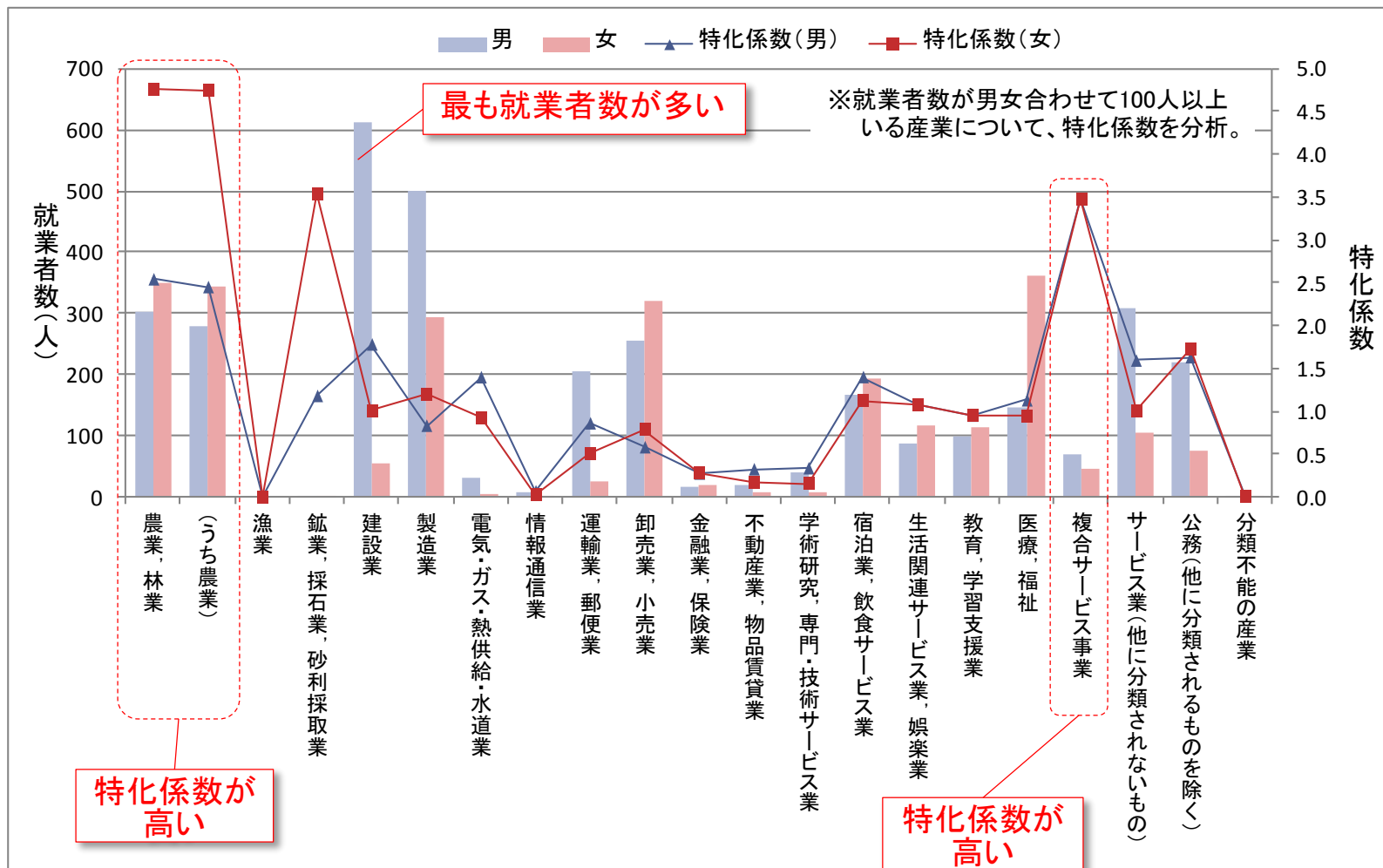
資料:住民基本台帳(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

道外への転出に比べ、札幌市及び周辺市町村への転出が多い

(8)雇用や就労等に関する分析

【図表】夕張市で働く産業別・男女別就業者数と特化係数

※【特化係数】 = 【夕張市の就業者比率】 ÷ 【全国の就業者比率】



※「複合サービス事業」は、信用事業、保険事業又は共済事業と併せて複数の大分類にわたる各種のサービスを提供する事業所であって、法的に事業の種類や範囲が決められている郵便局、農業協同組合等が分類される。

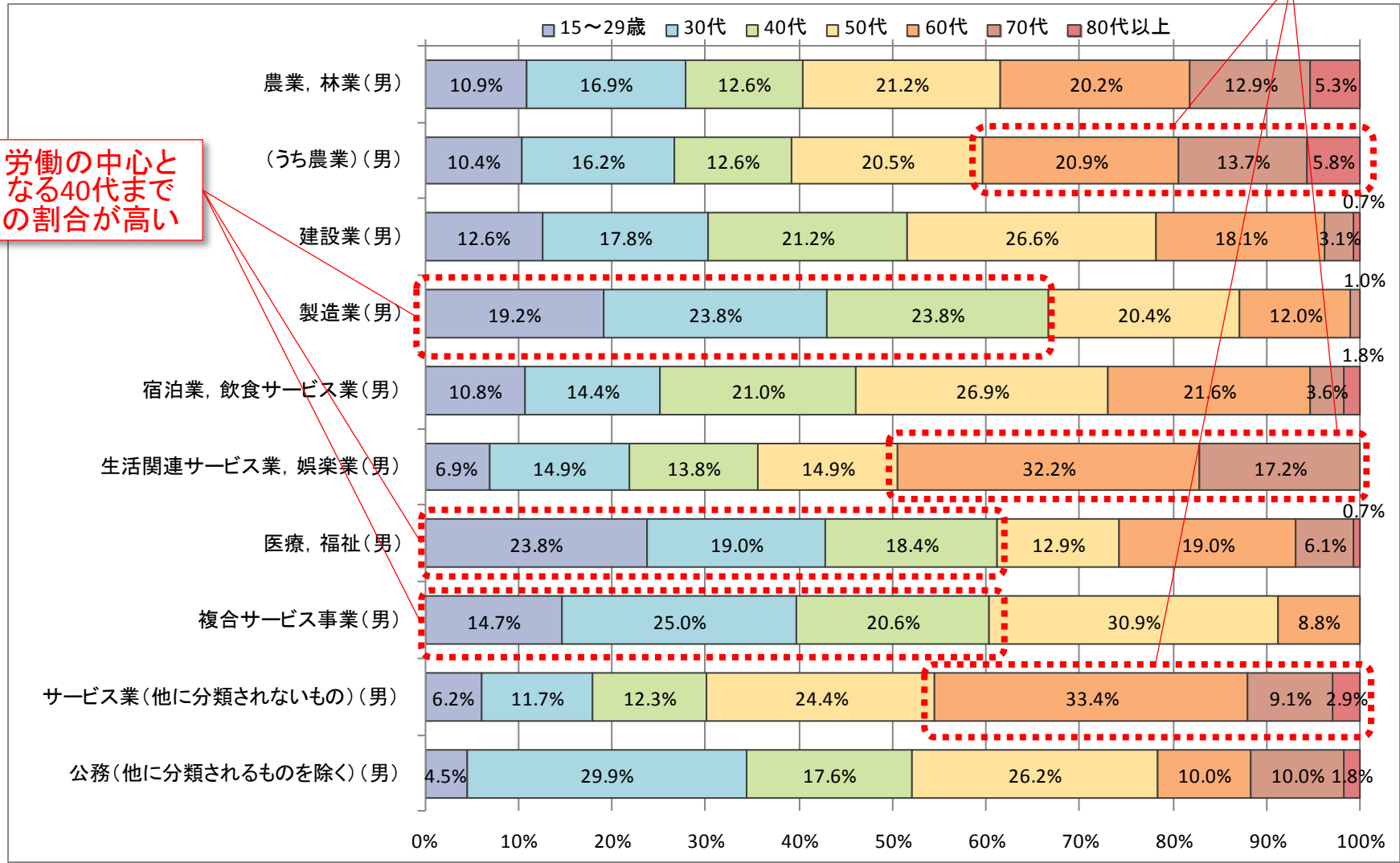
(8)雇用や就労等に関する分析

【図表】夕張市で働く産業別・年齢別就業者数の割合（男）

※就業者数が100人以上で、男女いずれかの特化係数が1を超える産業について分析

60代以上が4～5割を占め、高齢化が進行

労働の中心となる40代までの割合が高い



資料:総務省「平成22年国勢調査」

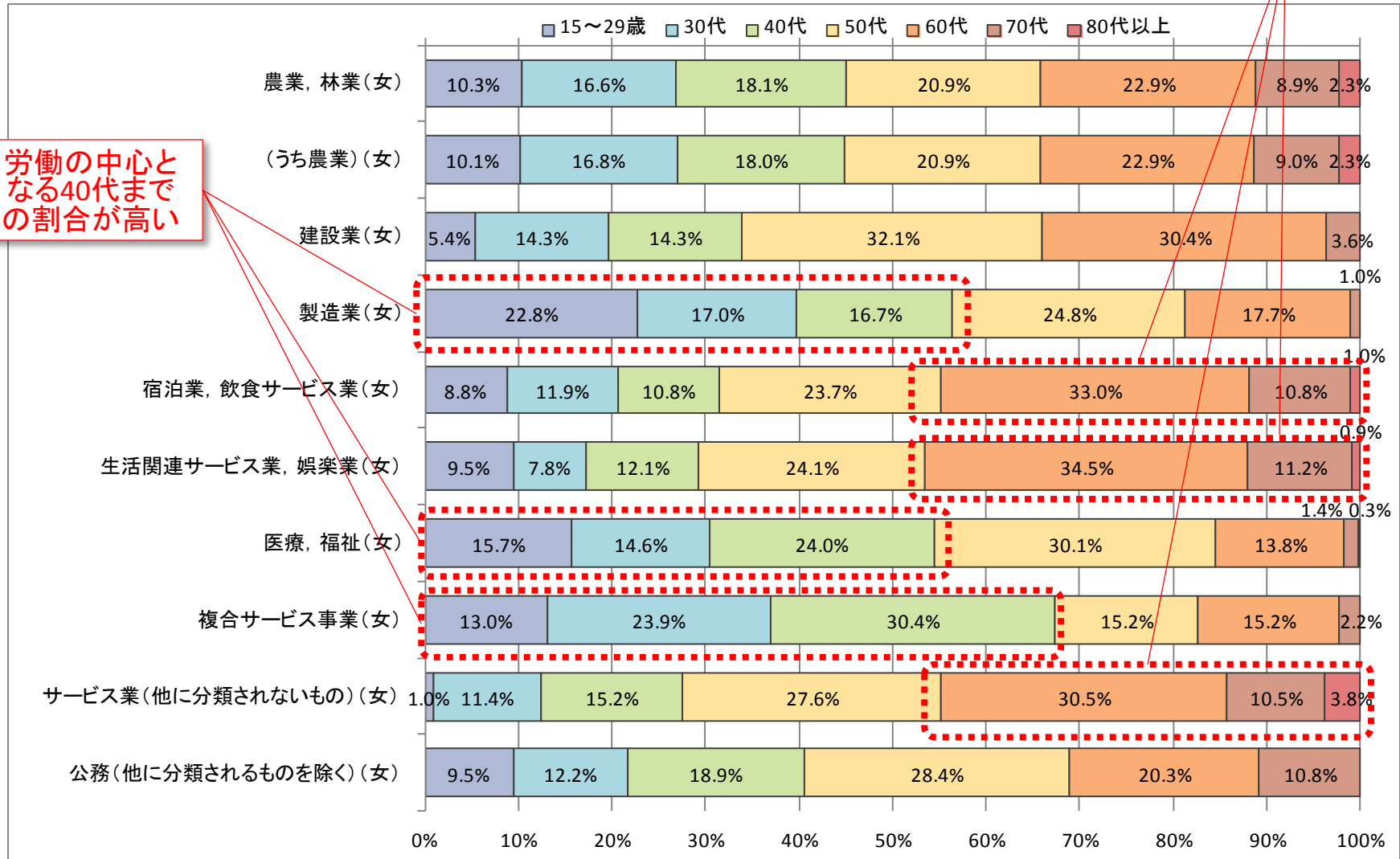
(8)雇用や就労等に関する分析

【図表】夕張市で働く産業別・年齢別就業者数の割合（女）

※就業者数が100人以上で、男女いずれかの特化係数が1を超える産業について分析

60代以上が4割以上を占め、高齢化が進行

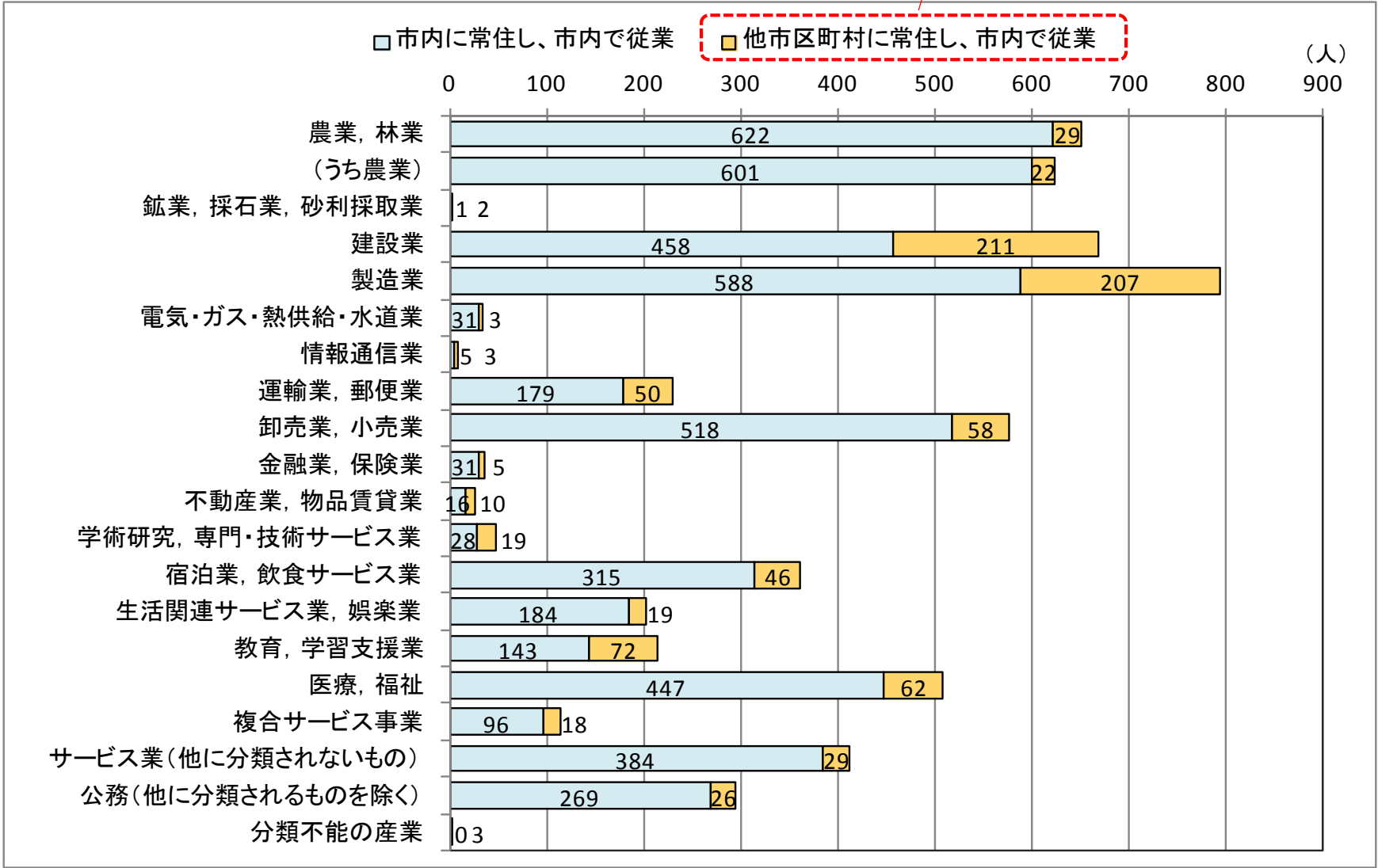
労働の中心となる40代までの割合が高い



(8)雇用や就労等に関する分析

【図表】夕張市で働く産業別就業者数

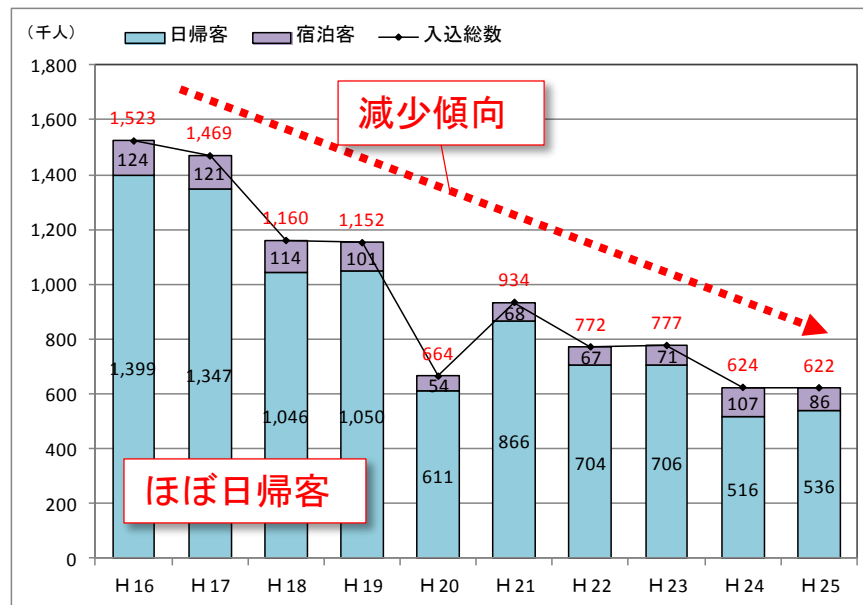
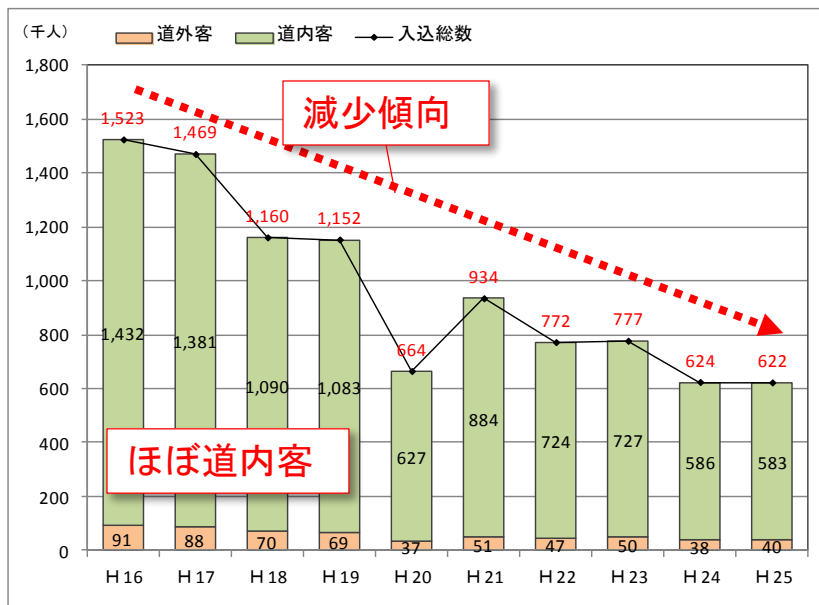
定住促進のターゲット



資料:総務省「平成22年国勢調査」

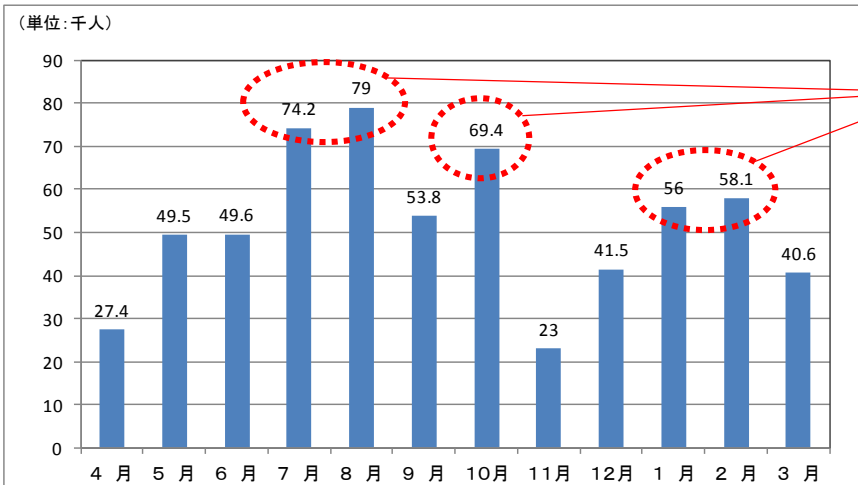
(9)観光に関する分析

【図表】夕張市の観光入込客数の推移（左：道内外客別 右：日帰・宿泊客別）



資料：北海道「北海道観光入込客数調査」

【図表】夕張市の月別の観光入込客数（H25）



観光のピークは、夏季の7～8月。
 その他、紅葉シーズンは10月、
 冬季は1～2月の観光客が多い。

資料：北海道「平成25年度北海道観光入込客数調査」

3. 将来人口推計

(1) 将来人口推計

【人口推計の考え方】

社人研推計準拠 (パターン①)

日本創成会議推計準拠 (パターン②)

移動

- 直近期間の純移動率が、平成27～32年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を平成47～52年まで一定と仮定。

- 社人研の平成22～27年の推計値から縮小せずに、平成47～52年まで概ね同水準で推移すると仮定。
- 社人研推計に比べて純移動率（の絶対値）が大きな値となる。

出生

- 子ども女性比と0～4歳性比に基づき出生率を推計。
(2040年に約1.12と僅かに減少)

パターン①と同じ

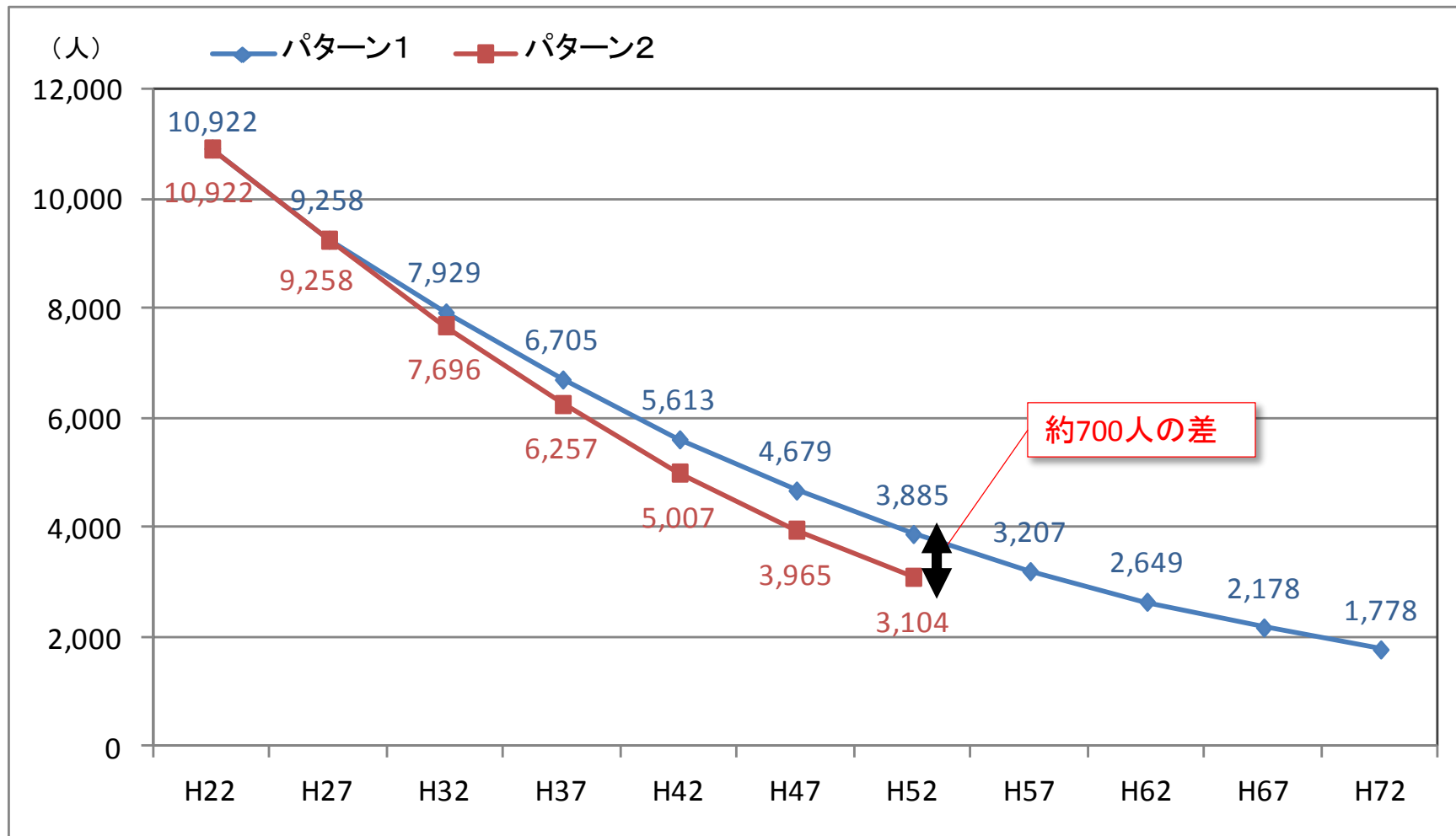
死亡

- 厚生労働省「都道府県別生命表」「市町村別生命表」を基に男女・年齢階級別に設定。

パターン①と同じ

(1) 将来人口推計

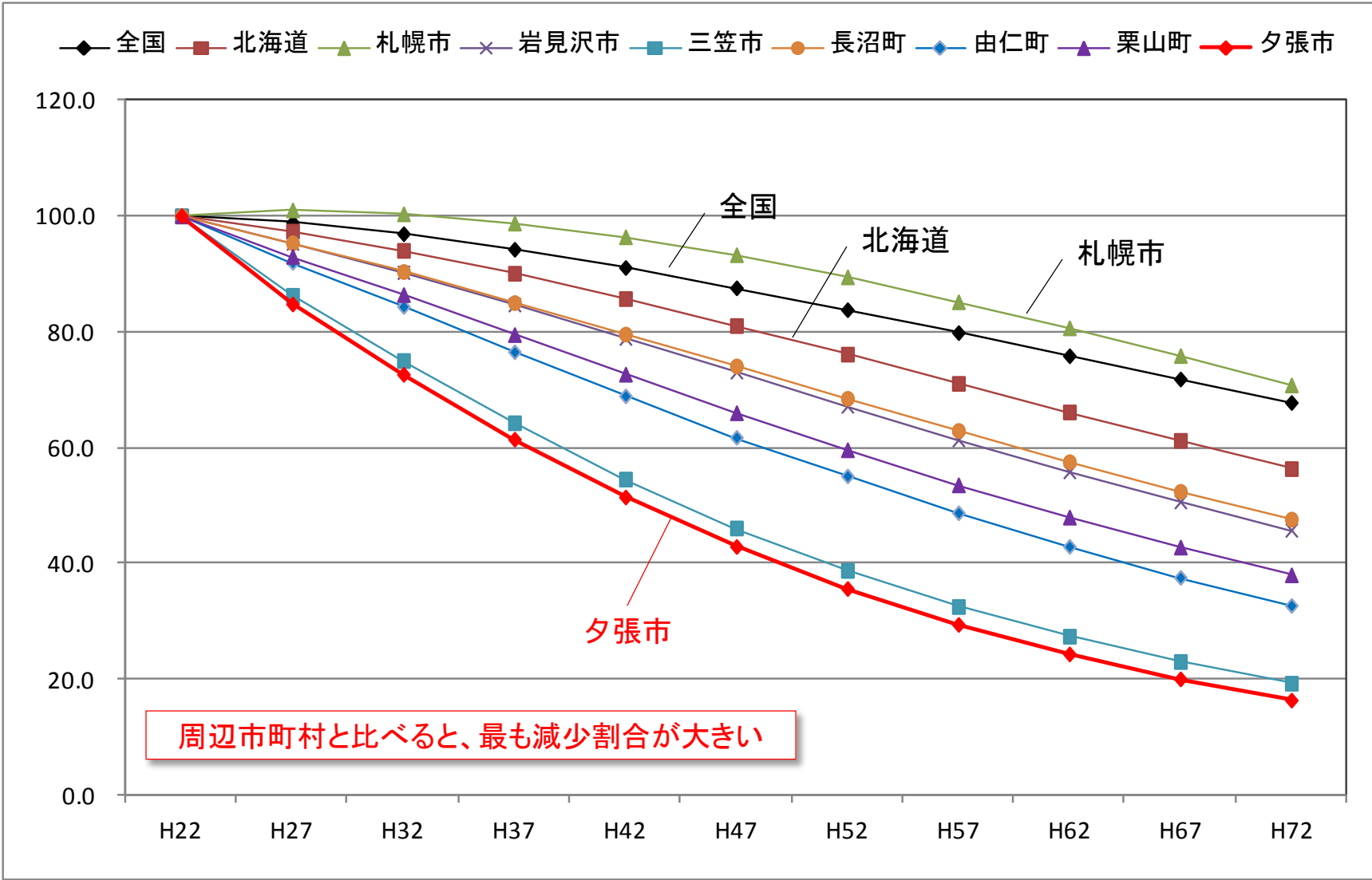
【図表】 パターン①とパターン②の総人口の比較



資料:まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

(1) 将来人口推計

【図表】 周辺市町村との比較（パターン①社人研推計準拠で比較）



資料: まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

(2) 将来人口の及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

(『地方人口ビジョン』及び『地方版総合戦略』の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について)より)

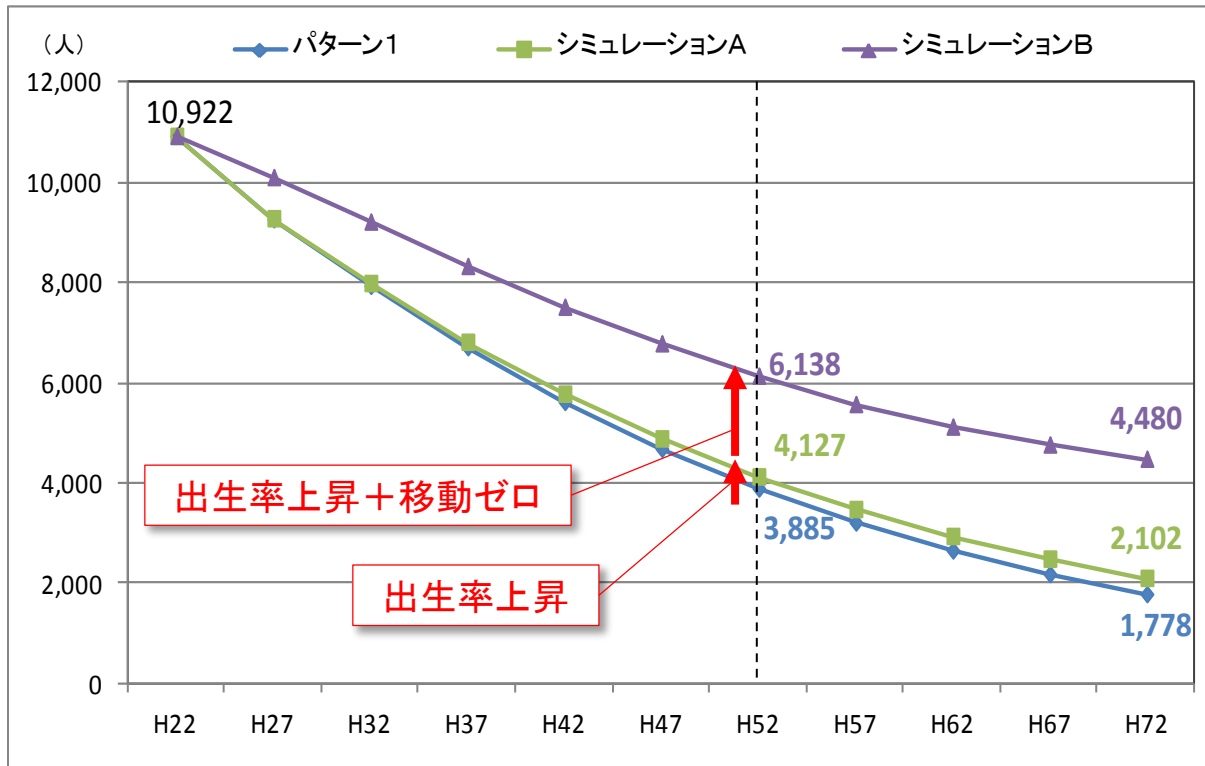
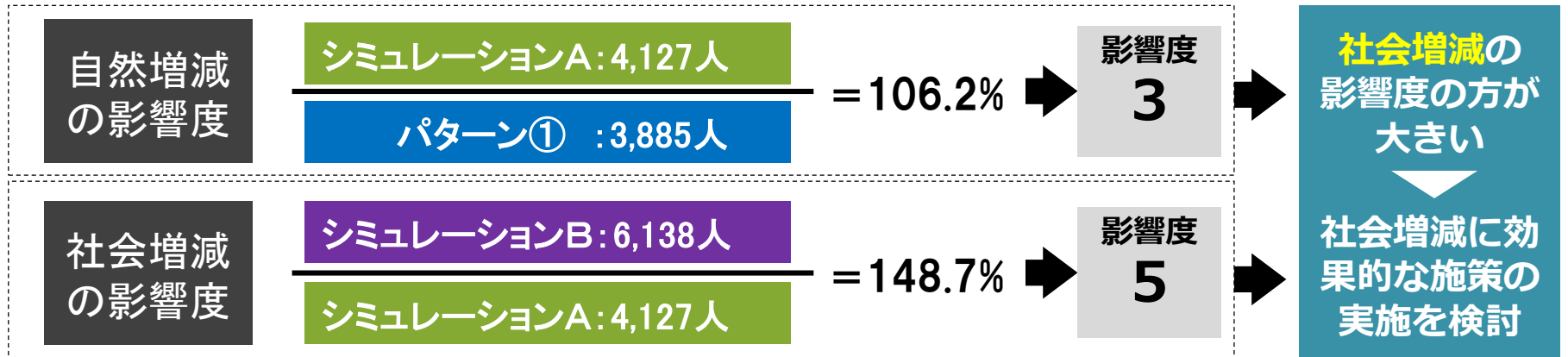
【人口推計シミュレーションの考え方】

	パターン①： 社人研推計準拠	シミュレーションA： ① + 出生率上昇	シミュレーションB： ① + 出生率上昇 + 移動ゼロ
移動	前スライド参照	パターン①と同じ	移動（純移動率）が ゼロ（均衡） で推移する と仮定
出生	前スライド参照	合計特殊出生率が H42（2030年）までに 人口置換水準（2.1）ま で上昇すると仮定	合計特殊出生率が H42（2030年）までに 人口置換水準（2.1）ま で上昇すると仮定
死亡	前スライド参照	パターン①と同じ	パターン①と同じ

国が示すケースのシミュレーションを実施。
今後、アンケート調査結果等も踏まえた、将来展望に向けたシミュレーションを実施予定。

(2) 将来人口の及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

(『地方人口ビジョン』及び『地方版総合戦略』の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について)より)



※影響度

【自然増減】

- 1 = 100%未満
- 2 = 100~105%
- 3 = 105~110%
- 4 = 110~115%
- 5 = 115%以上

【社会増減】

- 1 = 100%未満
- 2 = 100~110%
- 3 = 110~120%
- 4 = 120~130%
- 5 = 130%以上

(2) 将来人口の及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

(『地方人口ビジョン』及び『地方版総合戦略』の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について)より)

【図表】 道内市町村の自然増減・社会増減の影響度

		自然増減の影響度					総計
		1	2	3	4	5	
社会増減の影響	1	0	3 音更町, 芽室町, 更別村	8 千歳市, 恵庭市, 七飯町, 鹿部町, ニセコ町, 東神楽町, 東川町, 幕別町	7 北区, 東区, 白石区, 西区, 厚別区, 手稲区, 清田区	3 中央区, 豊平区, 仁木町	21 11.2%
	2	0	8 留寿都村, 赤井川村, 月形町, 鷹栖町, 安平町, 清水町, 鶴居村, 中標津町	18 旭川市, 室蘭市, 帯広市, 北見市, 網走市, 苫小牧市, 名寄市, 砂川市, 富良野市, 登別市, 伊達市, 石狩市, 北斗市, 今金町, 長沼町, 斜里町, 西興部村, 中札内村	3 南区, 岩見沢市, 北広島市	1 江別市	30 16.0%
	3	2 京極町, 泊村	15 知内町, 黒松内町, 俱知安町, 神恵内村, 中富良野町, 下川町, 猿払村, 小清水町, 大空町, 厚真町, 士幌町, 上士幌町, 鹿追町, 大樹町, 広尾町	27 釧路市, 稚内市, 滝川市, 新篠津村, 森町, 八雲町, 寿都町, 余市町, 栗山町, 新十津川町, 秩父別町, 北竜町, 当麻町, 比布町, 美瑛町, 剣淵町, 美深町, 枝幸町, 美幌町, 佐呂間町, 遠軽町, 湧別町, 興部町, 白老町, 新冠町, 新得町, 池田町	7 函館市, 小樽市, 長万部町, 雨竜町, 占冠村, 増毛町, 豊浦町	0	51 27.1%
	4	1 えりも町	17 厚沢部町, 乙部町, 島牧村, 真狩村, 喜茂別町, 共和町, 上富良野町, 和寒町, 羽幌町, 初山別村, 訓子府町, 日高町, 本別町, 足寄町, 標茶町, 弟子屈町, 別海町	28 紋別市, 士別市, 根室市, 深川市, 蘭越町, 岩内町, 積丹町, 奈井江町, 由仁町, 浦臼町, 沼田町, 愛別町, 上川町, 南富良野町, 小平町, 浜頓別町, 幌延町, 津別町, 置戸町, 滝上町, 壮瞥町, 洞爺湖町, むかわ町, 新ひだか町, 釧路町, 厚岸町, 浜中町, 標津町	3 美瑛市, 古平町, 雄武町	1 当別町	50 26.6%
	5	1 利尻富士町	14 奥尻町, 妹背牛町, 中川町, 幌加内町, 遠別町, 天塩町, 中頓別町, 豊富町, 礼文町, 利尻町, 清里町, 平取町, 陸別町, 浦幌町	17 夕張市 , 留萌市, 芦別市, 三笠市, 歌志内市, 松前町, 木古内町, 江差町, 上ノ国町, せたな町, 上砂川町, 苫前町, 浦河町, 様似町, 豊頃町, 白糠町, 羅臼町	3 赤平市, 福島町, 南幌町	1 音威子府村	36 19.1%
	総計	4 2.1%	57 30.3%	98 52.1%	23 12.2%	6 3.2%	188 100.0%

(2) 将来人口の及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

【図表】 推計結果ごとの人口減少率の比較

		総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	20～39歳 女性
H22年	現状	10,922	719	5,417	4,786	653
H52年	パターン1	3,885	173	1,534	2,178	180
	シミュレーションA	4,127	342	1,607	2,178	196
	シミュレーションB	6,138	715	2,528	2,895	416
	パターン2	3,104	105	1,235	1,764	100
		総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	20～39歳 女性
H22年	パターン1	-64.4%	-75.9%	-71.7%	-54.5%	-72.4%
→H52年	シミュレーションA	-62.2%	-52.5%	-70.3%	-54.5%	-70.0%
	シミュレーションB	-43.8%	-0.6%	-53.3%	-39.5%	-36.3%
	パターン2	-71.6%	-85.4%	-77.2%	-63.1%	-84.6%

出生率上昇により約50%へ縮小

移動ゼロにより約-1%へ大幅に縮小

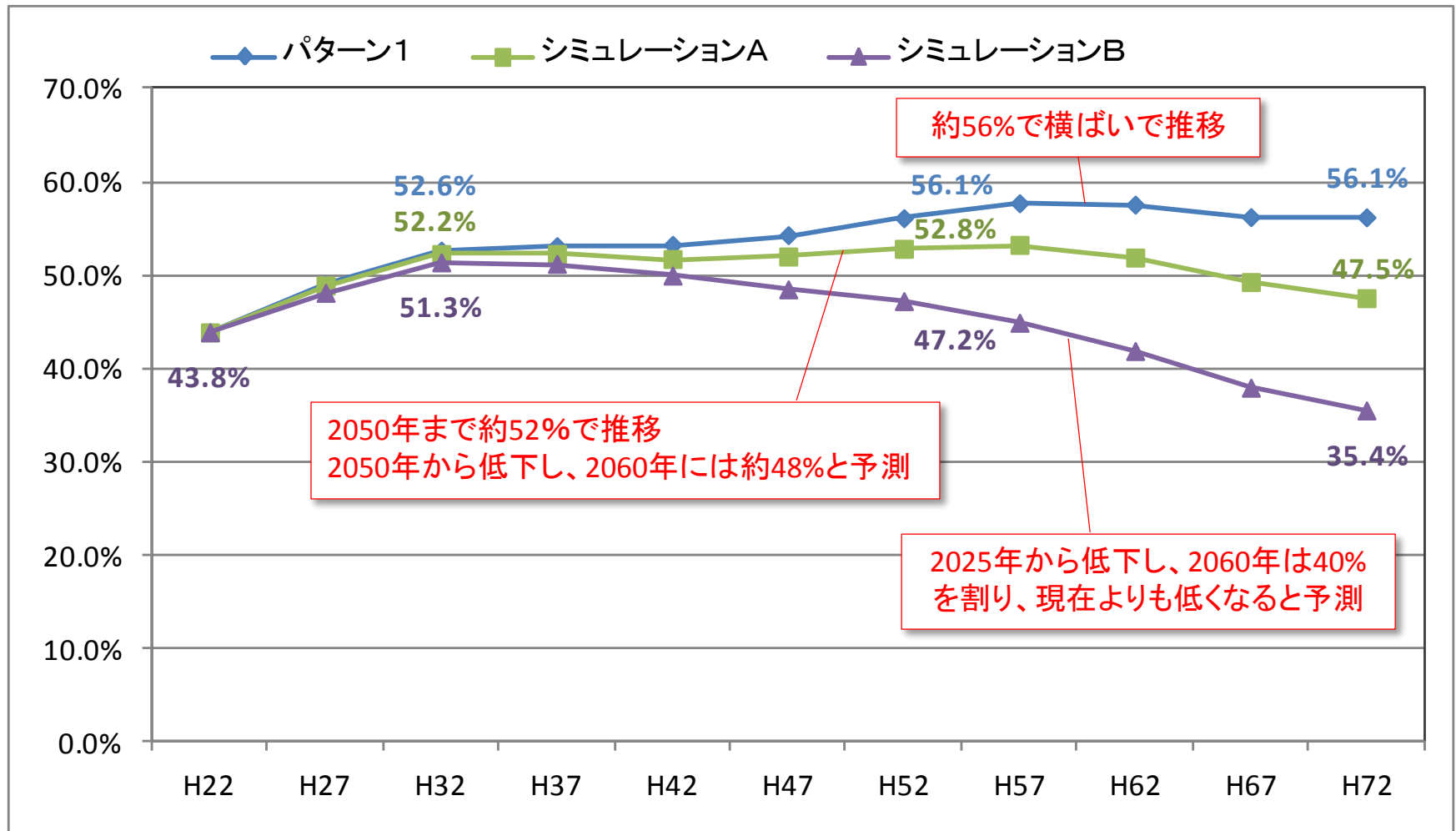
出生率上昇しても、
減少率に大きな変化なし

移動ゼロにより減少率は縮小

(2) 将来人口の及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

【図表】 老年人口割合の長期推計

(パターン1、シミュレーションA、シミュレーションB)



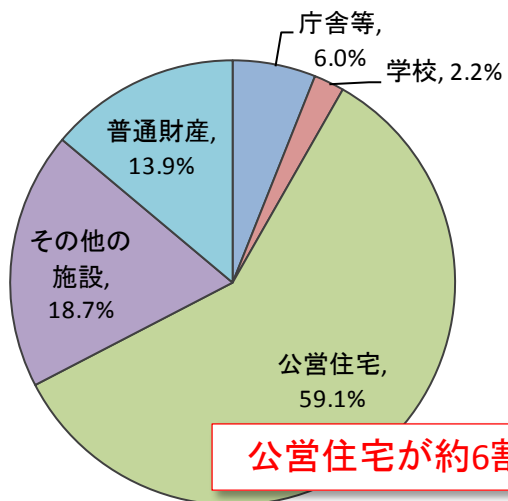
資料: まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

4. 人口減少が将来に与える影響の分析

(1) 公共施設の維持管理・更新等への影響

【図表】夕張市の公共施設の保有状況（H24年度）

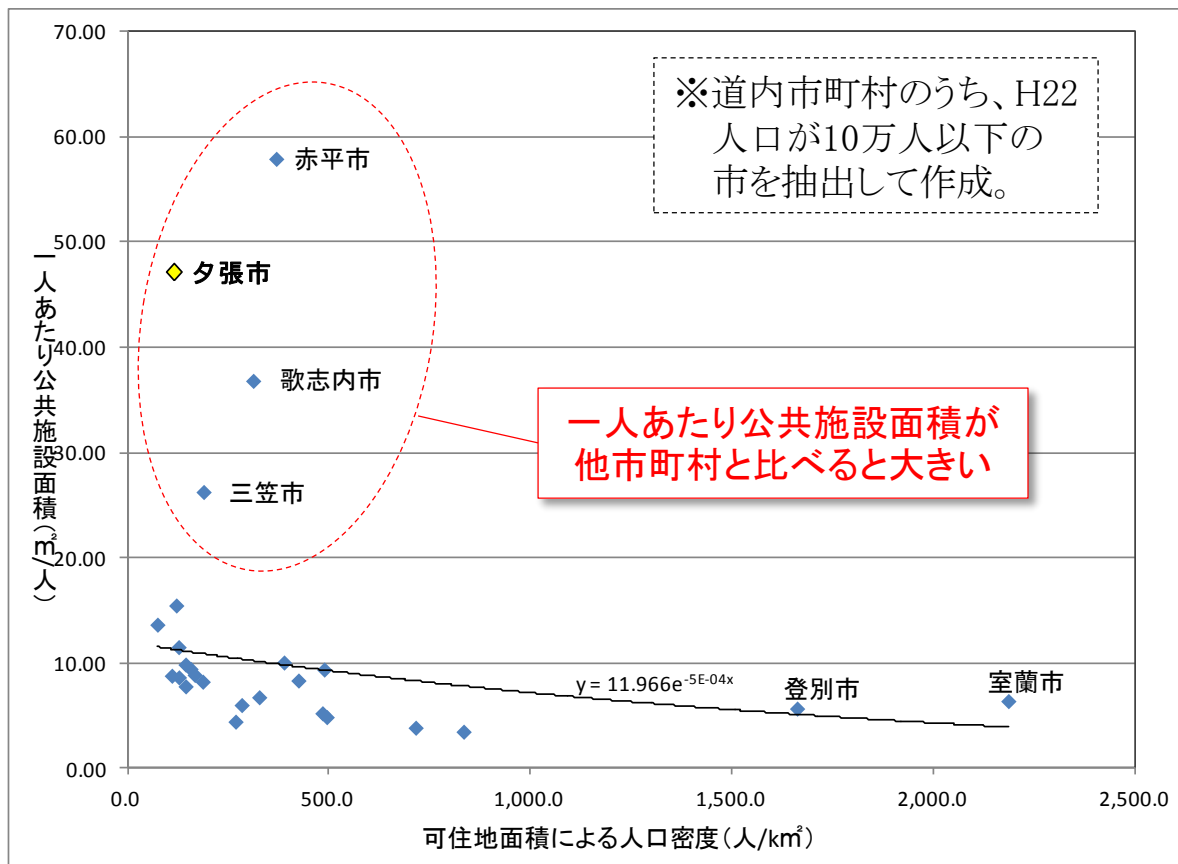
	面積(m ²)	構成比
庁舎等	31,048	6.0%
学校	11,359	2.2%
公営住宅	303,939	59.1%
その他の施設	96,269	18.7%
普通財産	71,391	13.9%
合計	514,006	100.0%



公営住宅が約6割

資料: 総務省「公共施設状況調経年比較表」

【図表】一人あたり公共施設面積の類似市町村との比較

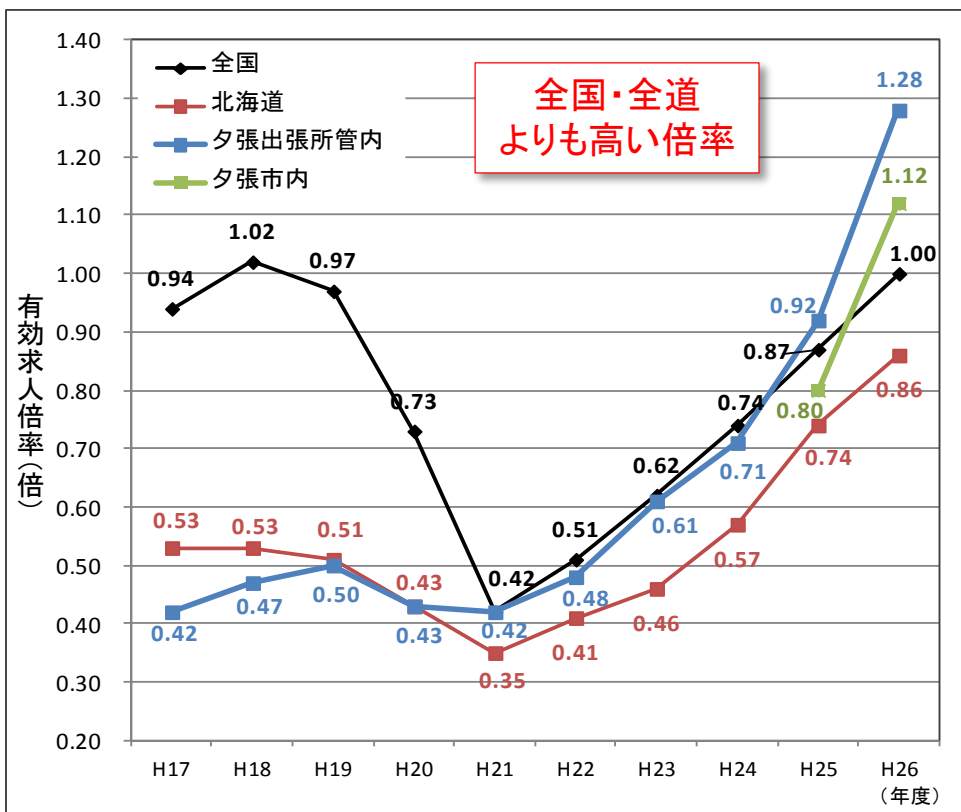


資料: 総務省「公共施設状況調経年比較表」、総務省「平成22年国勢調査」、総務省「社会・人口統計体系」

(2) 地域の産業における人材の過不足状況

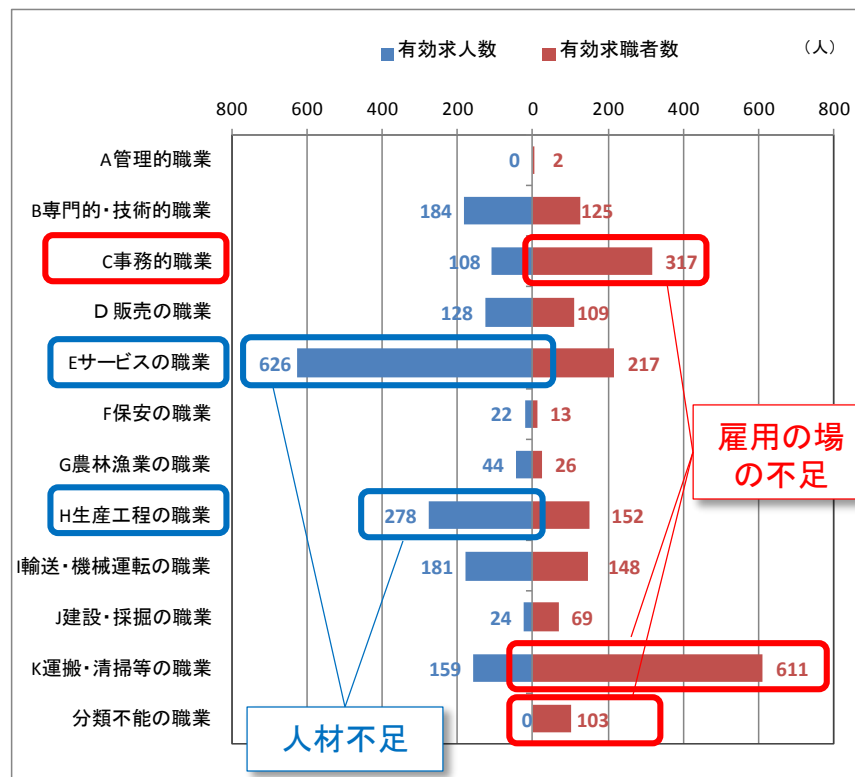
【図表】 有効求人倍率の推移

※夕張市は千歳市公共職業安定所夕張出張所の管轄に含まれ、夕張出張所では、夕張市の他に由仁町、長沼町、栗山町も管轄している。



資料: 北海道労働局「安定所別月間有効求人倍率(常用)の推移」
千歳市公共職業安定所夕張出張所 資料

【図表】 夕張市内における職業別有効求職者数と有効求人数(H25.11~H26.10)

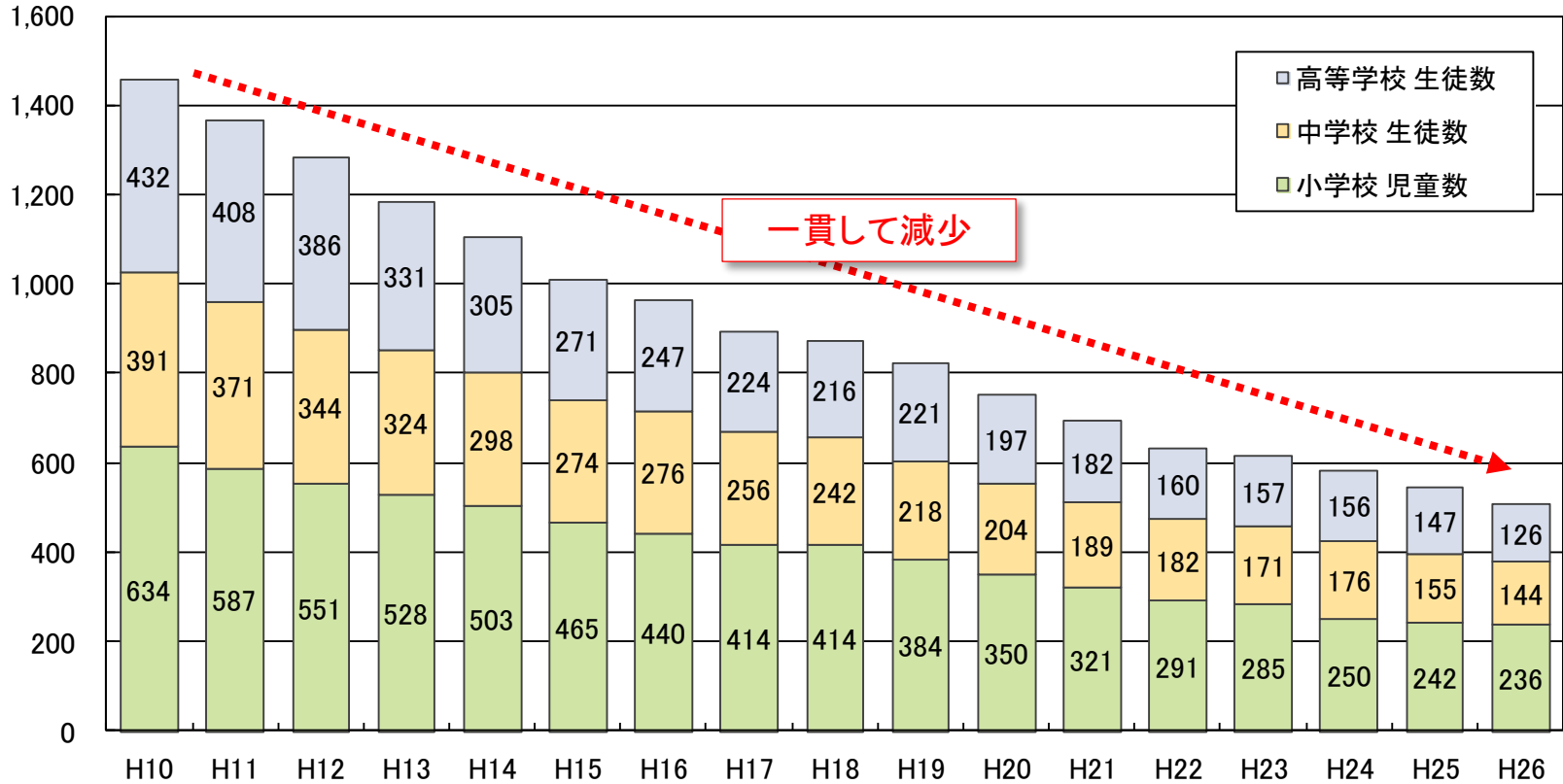


資料: 地域経済分析システム(RESAS)のデータから作成
(データ出典: 厚生労働省「職業安定業務統計」)

(3) 子どもへの教育への影響

【図表】 生徒数の推移

(単位:人)

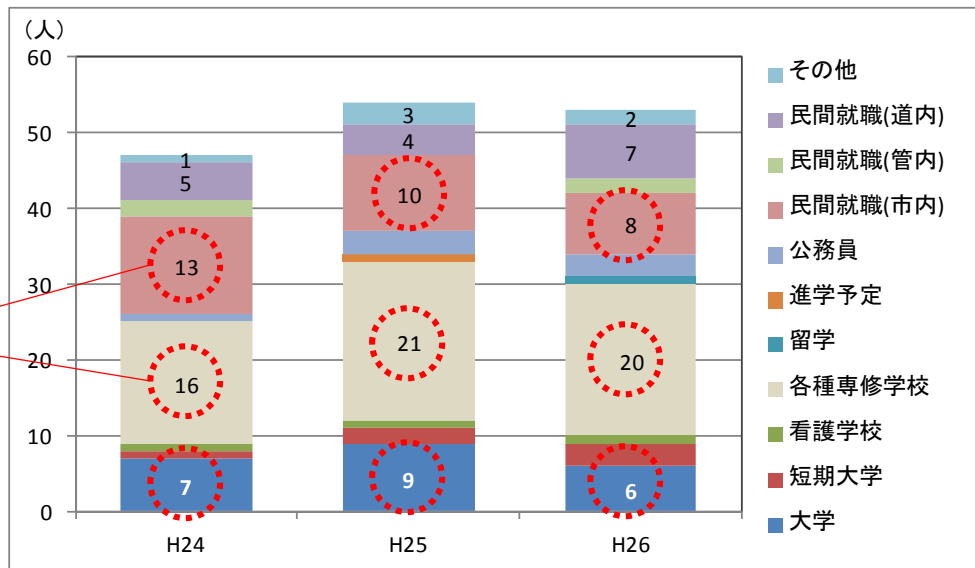


資料: 文部科学省「学校基本調査」

(3)子どもへの教育への影響

【図表】夕張高校卒業生の進学・就職先

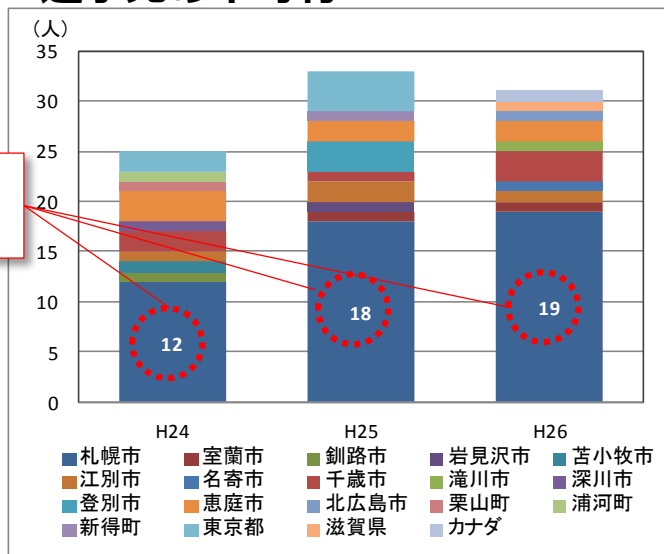
各種専修学校
市内の民間就職
私立大学が多い



資料:夕張高校「卒業生の進路」(平成24年～平成26年)

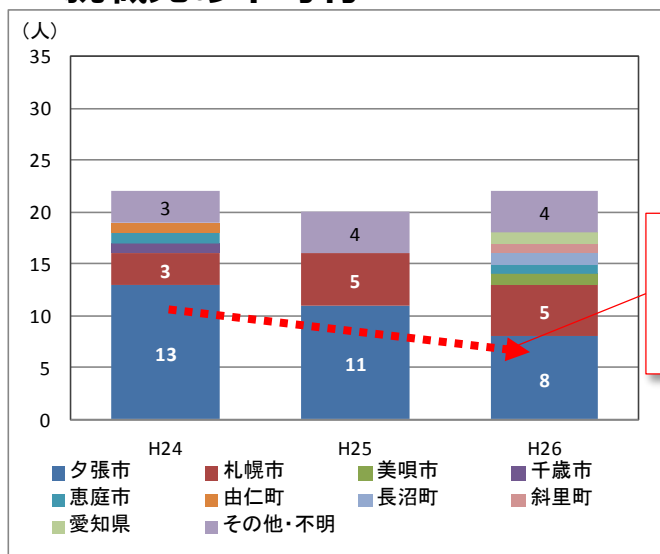
【図表】夕張高校卒業生の進学・就職先の市町村

《進学先の市町村》



札幌が
半数以上

《就職先の市町村》



夕張での就職が
多いものの、
減少傾向

資料:夕張高校「卒業生の進路」(平成24年～平成26年)

5. 夕張の資源・強み

(1)自然環境

■夕張岳



夕張岳

- ・芦別岳などを含めた一帯が、1955年(S30)に道立公園、1958年(S33)に道立自然公園に指定。
- ・1996年(H8)に「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」として、史跡名勝天然記念物に指定。



ユウバリコザクラ

- ・標高1,668mの山で、日本でも有数の高山植物の宝庫であり、6月下旬から9月末のシーズンには、全国から登山者が訪れる。
- ・蛇紋岩という特殊な地質により、ユウバリコザクラ、ユウバリソウといった夕張岳の固有植物など、多様な高山植物がみられ、“花の名山”として知られる。
- ・ユウバリコザクラの会により、夕張岳ヒュッテの管理・運営ボランティア、登山道のパトロールが実施されている。

■シューパロダム（シューパロ湖）



シューパロダム

- ・シューパロダムは、H27年4月から供用を開始し、湛水面積はダム湖としては日本で2番目。総貯水容量も第4位で、全国の中でも屈指の大貯水池。



夕張川での体験

- ・「ゆうばり自然体験塾」では、夕張川でのラフティングや、石炭採掘・ズリ山登山、夕張メロンを使ったジャムやパン作りなど、夕張の自然や歴史などの魅力を体験できるツアー・プログラムを実施。

■滝の上公園



滝の上公園

- ・ボンソウカムイコタン(北方にある神が住んでいるところ、小さな滝のあるところ)と呼ばれ、「千鳥ヶ滝」や「竜仙峡」などの滝や奇岩、特に秋が魅力的な景観を形成。
- ・10月には、「夕張もみじ祭り」を開催。

(2) 歴史資源

■ 石炭博物館



石炭博物館

・国内最大の炭鉱ミュージアム。石炭の誕生や使用方法、炭鉱時代の生活や仕事など、石炭と炭鉱の歴史を学べる体験型博物館。実際に使用されていた坑道を見学することができる国内唯一の施設でもある。



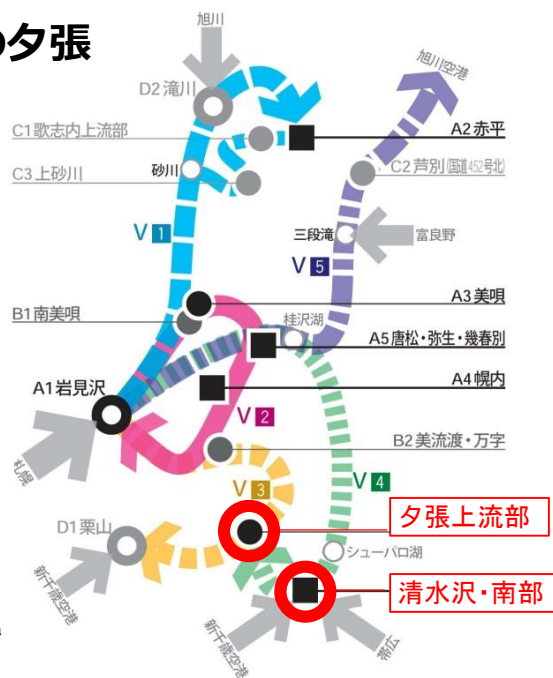
模擬坑道

・炭鉱住宅や友子制度など、炭鉱のまちで根付いた生活文化も学ぶことができる。

■ 空知産炭地域の中の夕張

・空知産炭地域には多くの炭鉱資源があり、夕張は炭鉱資源を生かした地域再生の拠点の一つに位置付け。

- V1 歴史
- V2 アート
- V3 産業的自然
- V4 ジオパーク
- V5 回廊



資料: 北海道空知総合振興局「元気そらち！産炭地域活性化戦略」に加筆

■ ズリ山



『高松地区のズリ山』航空写真
S28年～S52年 2,200万㎡

- ・旧炭鉱で採炭され、選炭において不純物等を含むものをズリとして山間に堆積させたもの。
- ・炭鉱の閉山と共に炭鉱会社から引き継いだ財産の一つであり、夕張市内には60余りのズリ山が存在。
- ・市がズリの採取権を民間に有償で与え、産学金官の連携により、ズリ山の有効活用を図る事業を実施中。

■ 夕張鹿鳴館



夕張鹿鳴館

- ・1913年、北海道炭鉱汽船株式会社が役員交歓や来賓接待などを目的に「北炭鹿の谷倶楽部」として建設した施設。経済産業省が「近代化産業遺産」に認定。現在は、レストランと宿泊施設を開設。

■ その他の歴史資源

- ・滝の上水力発電所
- ・石炭大露頭
- ・三弦トラス橋(シューパロダム completionにより水没)
- ・旧三菱石炭鉱業大夕張鉄道 南大夕張駅
- ・旧北炭夕張炭鉱天龍坑口
- ・日本聖公会夕張教会堂(現日本キリスト教会夕張教会堂)
- ・旧北炭楓坑発電所 など

(3) 農業

■ 夕張メロン



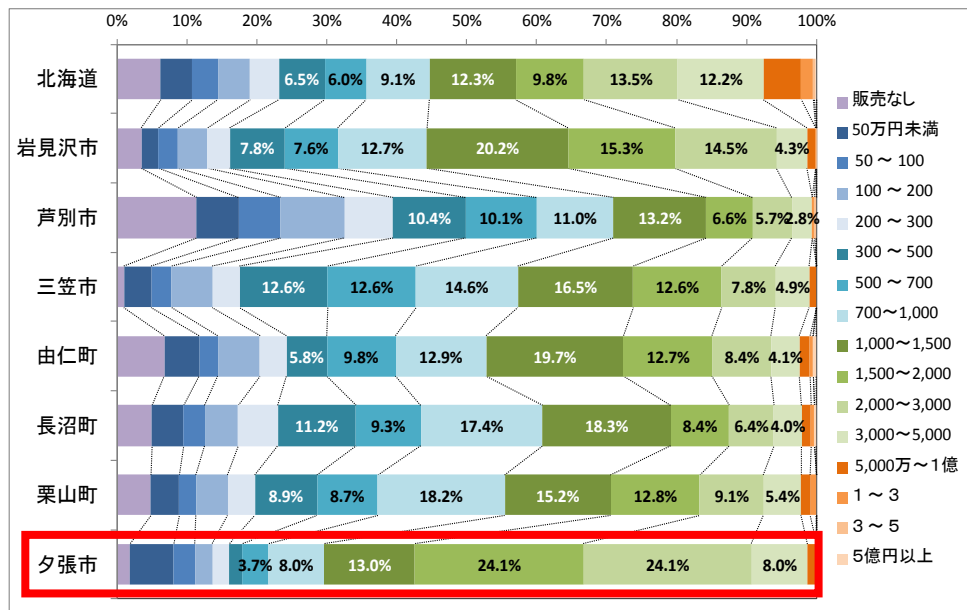
- ・夕張の狭い地形の中で収益性の高い農作物の生産を目指し、メロンの新しい品種の研究、育成が行われ、S35年に品種開発されてから生産が続けられている。
- ・夕張メロンの生産は、農協・生産者が一体となった体制で行われ、採種から生産まで一元管理されている。
- ・夕張メロンには細かな出荷規格があり、特に「共撰メロン」に区分される優秀なメロンには「特秀・秀・優・良」の4段階の等級とそれぞれの規格が設けられている。
- ・夕張メロンの出荷は5月中旬～8月までの約3カ月間のみ。

■ 道の駅「夕張メロード」



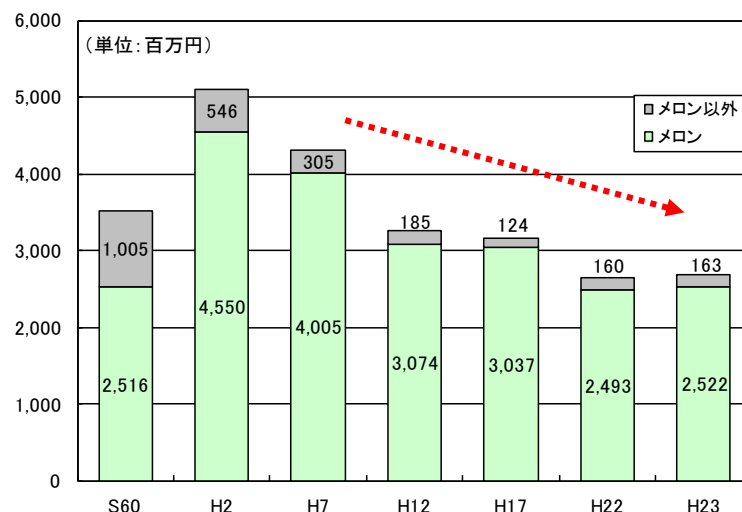
- ・夕張ICから車で5分の位置にある、JR新夕張駅に隣接したアクセスの良い場所に立地。

【図表】 農産物販売規模額別経営体数の割合



資料：農林水産省「農林業センサス2010」

【図表】 夕張市の農業生産額の推移



資料：夕張市資料

(4)観光・交流

■ マウントレースイスキー場



- ・新千歳空港から1番近いスキー場。
- ・ホテルからゴンドラ乗り場まで直結。

■ 宿泊施設

【ホテルマウントレースイ】



■ 幸福の黄色いハンカチ想い出ひろば



- ・山田洋次監督「幸福の黄色いハンカチ」の黄色いハンカチの幟(のぼり)や炭鉱住宅などをロケ当時のまま保存。
- ・壁一面に来訪客による黄色いメッセージカードが埋め尽くされている。

【ゆうばりホテルシューパーロ】



■ ゆうばり国際ファンタスティック映画祭



- ・1990年から毎年2月末に開催する映画祭。
- ・新しい才能の発見・育成、映画による世界各国間の文化交流・相互理解の促進を通じて、市民、映画人、観客の三者のコミュニケーションによる出会いの場を提供。

【その他】

- ・合宿の宿 ひまわり
- ・大夕張山荘「北の宿」
- ・大黒屋旅館
- ・ビジネスホテルYUUBARI
- ・夕張フォレストユースホステル
- ・交流の里「きずな」

(4) 観光・交流

■ サングリンスポーツヴィレッジ (夕張市平和運動公園)



【施設】

- ・第1球技場
- ・第2級議場
- ・多目的運動広場
- ・陸上競技場
- ・サングリンスタジアム

・Jリーグのキャンプや日ハムイースタンリーグ戦など、サッカー、ラグビー、野球などの合宿に利用。

■ ゆうばり文化スポーツセンター

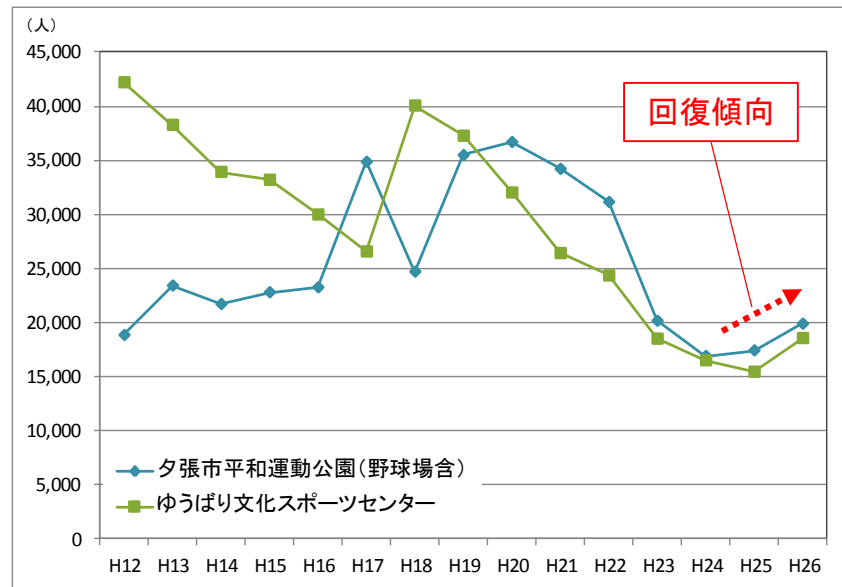


【施設】

- ・メインアリーナ
(2階固定554席、
ロールバックスタンド 516席)
- ・サブアリーナ
- ・トレーニング室
- ・柔道場
- ・幼児軽運動場
- ・研修室

・S60年竣工。・ゆうばり国際映画祭のメイン会場として使用した超大型スクリーンと音響設備も備え、コンサート会場としても使用可能。

【図表】 施設利用者数の推移



資料:夕張市資料

■ その他施設

- ・ゆうばりテニスコート
- ・夕張市民健康会館
- ・夕張市市営球場
(鹿の谷球場、緑ヶ丘球場)
- ・パークゴルフ場
(虹ヶ丘パークゴルフ場、紅葉山パークゴルフ場) など

6. 地方創生に向けて議論すべき課題・論点

(1) 基本的な考え方

- 「夕張市人口ビジョン・地方版総合戦略」の計画策定では、市長政策や推進中の既存計画、また様々な視点からの知恵を結集し、**地域が主体的に取り組む計画策定**を目指します。
- 財政破綻から9年経過し、人口減少等の様々な課題を抱えた中で、今後も夕張に住み続けることができる持続可能な地域形成に向けた、新たな挑戦を目指す**「コンセプト」**を設定します。
- コンセプトは、まちづくりの基本理念として、夕張の「過去」や「現在」を踏まえた、**「未来志向」で次世代に向けて挑戦する**考えを示し、市民・行政・事業者を含めた“オールゆうばり”で共有化を図ります。

(2)現状・課題の整理 (案)

①人口減少局面の変化 ~ 高齢者人口の減少が本格化

- ・ 2040年には3,883人と、現在(約9,200人)から半数以下になると推計。
- ・ 高齢者人口も減少するため、高齢化率は約50%から、2040年には約56%と高齢化率の上昇は鈍化する。

➡ 各世代に対する人口減少対策が必要

②約-180人の自然減少、約-200人の社会減少

- ・ 転出層としては、10~20代の若者のみならず、60歳以上の高齢者が3~5割を占める。
- ・ 道外の

➡ 自然減少対策、社会減少対策の両方が必要

③出生率は北海道全体よりも高い

- ・ 合計特殊出生率：夕張1.32 全道1.28 全国1.43

➡ 若者・ファミリー世帯の取りこみが必要

④夕張を支える産業の担い手が高齢化

- ・ 特化係数の高い農業などで高齢化が進行。

➡ 技術移転も含めた後継者育成性が必要

- ・ 一方、製造業、医療・福祉、複合サービス事業（組合等）では、40代までの若手で過半を占めている。

➡ 企業誘致や起業支援による若手従業者の拡大が必要

(2)現状・課題の整理 (案)

⑤市外から夕張に通勤する就業者が全体の約17%を占める

- ・市外から通勤して夕張で働く就業者は800人以上で、夕張で働く就業者数全体の約17%を占める。
- ・市外からの通勤者のうち、建設業と製造業で過半数を占めている。

➡ **市外からの通勤者の市内居住への誘導、移住・定住促進が必要**

⑥公共施設の維持管理負担が増加

- ・一人あたり公共施設面積が大きく、人口減少の進行によって今後さらに一人あたりの維持管理の負担が増加すると予測される。

➡ **公共施設の集約化等によるまちのコンパクト化が必要**

⑦子ども数の減少。卒業生の多くが市外へ転出。

- ・学生数が一貫して減少し、夕張高校の存続も懸念。
- ・夕張高校卒業生の多くが、市外に進学または就職。市内の就職は減少傾向。

➡ **子育てのしやすい子育て環境や支援策が必要。
魅力的な教育の場、卒業生が就職できる雇用の場の確保が必要。**

⑧観光入込客数の低下

- ・夕張の観光客のほとんどが、道内客で日帰り。
- ・20年前の平成5年の230万人から約7割減少し、平成25年は62万人。

➡ **未利用資源（ズリ山、産業遺産、シューパロダム、CBM等）を生かした、新たな魅力づくりと、オール夕張としての情報発信が必要**

(3) 地方創生に向けて議論すべき課題・論点

夕張の地方創生に向けた **4つ** の視点で議論

視点1 夕張の資源を活用した**雇用**を創出するためには？

- 例えば
- ・新規就農者への支援
 - ・農業の技術移転、後継者育成
 - ・新エネルギー(CBM)の活用促進
 - ・市有林を活用した薬木の生産(森林資源の活用)
 - ・廃校施設を活用した起業支援
 - ・元気な高齢者が働く場・活躍できる場の創出 など

視点2 新たな人のながれ・**交流**人口を生むためには？

- 例えば
- ・石炭博物館の再生
 - ・空知圏や産炭地域で広域連携した観光
 - ・史跡や天然記念物、未利用資源を活用した観光の充実
 - ・合宿誘致の強化、充実
 - ・域学連携の推進(地域と大学の連携)
 - ・観光情報や移住情報などの積極的な情報発信 など

主にグループ1で議論

(3) 地方創生に向けて議論すべき課題・論点

夕張の地方創生に向けた **4つ** の視点で議論

視点3 若者の定住を促進するためには？

- 例えば
- ・若者、子育て世帯、女性向けの住宅の建設促進
 - ・安心できる地域医療体制の整備
 - ・安心の子育て支援体制の強化
 - ・魅力ある高校づくり、夕張ならではの特色ある教育(小中高連携 等)
 - ・子どもの居場所づくり
 - ・郷土愛教育の充実 など

視点4 まちのコンパクト化、拠点形成のためには？

- 例えば
- ・「都市拠点」に位置付けている清水沢地区の拠点形成
 - ・交通結節点の形成
 - ・子どもの居場所づくり、子育て支援機能の導入
 - ・多目的サロンの形成
 - ・人口規模に適した公共施設管理の効率化 など

主にグループ2で議論